

【チュートリアル】 Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c Bundle Patch 1(12.1.0.1.0) アップグレード・ガイド(Linux x86-64 版)



作成日: 2012-8-30 更新日: -Version: 1.0

目次

1.	はじめに5	
1.1	対象者	5
1.2	2. 関連ドキュメント	5
1.3	3. 省略表記	6
1.4	L. 表記規則	6
2.	Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c アップグレード概要7	
2.1	. アップグレード方式の概要	7
2.2	2. アップグレード・コンソール	7
2.3	3. サポートされるアップグレード・パス	8
3.	アップグレードの事前準備9	
3.1	. 前提条件の確認	9
3.2	2. 最新 OPatch の適用	9
3.3	3. 前提パッチの適用	10
3.4	Ⅰ. アップグレード・コンソール・パッチの適用	10
4.	「1 システム・アプローチ」によるアップグレード	
4.1	. アップグレード環境	16
4.2	2. アップグレード・コンソールによる作業	18
4.2	2.1. アップグレード・タイプの選択	18
4.2	2.2. アップグレード前のステップ	19
4.2	2.3. エージェントのアップグレード処理	22
4.3	3. OMS およびリポジトリのアップグレード	29
4.3	3.1. 前提条件の確認	29
4.3	3.2. リポジトリ・データベースのバックアップとアップグレード	30
4.3	3.3. OMS のアップグレード	31
4.4	Ⅰ. アップグレード後のタスクの実行	45
4.4	l.1. 一般的なアップグレード後のタスク	45
4.4	l.2. 遅延データ移行の実行	46
4.4	ŀ.3. インシデント・ルールの更新	47
5.	「2 システム・アプローチ」によるアップグレード48	
5.1	. アップグレード環境	48
5.2	2. アップグレード・コンソールによる作業	50
5.2	2.1. アップグレード・タイプの選択	50
5.2	2.2. アップグレード前のステップ	51
5.3	3. OMS とリポジトリのアップグレード処理	54
5.3	3.1. 前提条件の確認	54
5.3	3.2. リポジトリ・データベースのコピーの作成とアップグレード	54
5.3	3.3. OMS のアップグレード	57

Copyright© 2012, Oracle. All rights reserved.

5.3.4.	データベース・リンクの作成	72
5.3.5.	ソフトウェア・ライブラリの再構成	74
5.4.	エージェントのアップグレード処理	76
5.5.	アップグレード後のタスクの実行	83
5.5.1.	一般的なアップグレード後のタスク	83
5.5.2.	遅延データ移行の実行	84
5.5.3.	発生データ移行の実行	86
5.5.4.	差分レポートの生成と表示	88
5.5.5.	アクティブ化を保留中のターゲットの表示	90
5.5.6.	発生データ移行プロセスのサインオフ	91
5.5.7.	インシデント・ルールの更新	93

1. はじめに

2012 年 2 月に Oracle Enterprise Manage Cloud Control 12c(12.1.0.1)の Bundle Patch 1(BP1)、および 12.1.0.2 Plug-in がリリースされました。

本資料では、Oracle Enterprise Manager の旧リリースである Oracle Enterprise Manager Grid Control 10g をベースに、既存の環境を Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c Bundle Patch 1 および 12.1.0.2 Plug-in へアップグレードする際の手順をまとめ、記載しています。

また Oracle Enterprise Manager Grid Control 11g からアップグレードする際に Grid Control 10g と使用するコマンドが異なるような場合は、できるだけその内容も追記しています。

本資料の作成においては、実際にアップグレード作業を通して動作の確認を行っていますが、本資料の基となる 「1.2.関連ドキュメント」に挙げたドキュメントは適宜更新される可能性があり、また、本資料はご利用の環境のす べてを網羅するものではありませんので(例:複数の Oracle Management Service(OMS)構成で運用している 場合など)、作業に際しては必ず「1.2.関連ドキュメント」の最新版を併せてご覧ください。

本資料は、Oracle Linux 5.7 x86-64bit システムで、Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c Bundle Patch 1(12.1.0.1.0) ヘアップグレードする場合の手順書です。Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c Bundle Patch 1 のアップグレード方法と起動/停止方法、アクセス方法についても説明します。

1.1. 対象者

本資料は、すでに Oracle Enterprise Manager Grid Control 10g または 11g をご利用の方で、既存の環境を Oracle Enterprise Manager Bundle Patch 1 および 12.1.0.2 Plug-in へアップグレードされる方を対象としてい ます。

本資料中で使用する各パッチの入手には、サポート契約ならびに My Oracle Support へ接続のためのアカウントが必要となります。

サポート契約のない場合は、アップグレードに必要となる各パッチを適用することができませんので、パッチ適用 済みフルインストール・メディアを利用した新規インストールによる環境構築を検討してください。

1.2. 関連ドキュメント

本資料は、以下のドキュメントを基に構成しています。 アップグレード実施に際しては、必ずこれらのドキュメントの最新版(英語)も確認してください。

Oracle Enterprise Manager Cloud Control Documentation (<u>http://docs.oracle.com/cd/E24628_01/index.htm</u>) Oracle Enterprise Manager Cloud Controlドキュメント(日本語版) (<u>http://docs.oracle.com/cd/E26854_01/index.htm</u>)

Basic Installation Guide

 (http://docs.oracle.com/cd/E24628_01/install.121/e22624/toc.htm)
 基本インストレーション・ガイド(日本語版)
 (http://docs.oracle.com/cd/E26854_01/install.121/b65084/toc.htm)

Upgrade Guide

(<u>http://docs.oracle.com/cd/E24628_01/upgrade.121/e22625/toc.htm</u>) アップグレード・ガイド(日本語版) (http://docs.oracle.com/cd/E26854_01/upgrade.121/b65086/toc.htm)

(参考)

Oracle Database 11g Release 2(11.2) Documentation (<u>http://www.oracle.com/pls/db112/homepage</u>) Oracle Database 11g Release 2(11.2) ドキュメント(日本語版) (<u>http://docs.oracle.com/cd/E16338_01/index.htm</u>)

ヒント

本資料の本文内からこれらの関連ドキュメントへのリンクを行っている場合は、ドキュメントの最新版へのとして、 原則英語版へのリンクを掲載しています。

1.3. 省略表記

本資料では、次の省略表記を使用している箇所があります。

名称	省略表記
Oracle Enterprise Manager	EM
Oracle Enterprise Manager Grid Control	EMGC / Grid Control
Oracle Enterprise Manager Cloud Control	EMCC / Cloud Control
Oracle Universal Installer	OUI
Oracle Management Service	OMS
Oracle Management Agent	Agent
My Oracle Support	MOS
Bundle Patch 1	BP1

1.4. 表記規則

本資料では、次の表記規則を使用します。

規則	意味
太字	太字は、操作に関連する Graphical User Interface 要素を示します。
イタリック体	イタリックは、ユーザーが特定の値を指定するプレースホルダ変数を示します。
固定幅フォント	固定幅フォントは、段落内のコマンド、サンプル内のコード、画面に表示されるテキス
	ト、または入力するテキストを示します。
#記号	bash シェルの root ユーザーのコマンドプロンプトを表します。
\$記号	bash シェルの Oracle 製品インストール・ユーザーのコマンドプロンプトを表します。

2. Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c アップグレード概要

2.1. アップグレード方式の概要

Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c では、既存の Oracle Enterprise Manager システムをアップグレードするために、次のアップグレード方式が用意されています。

- 1 システム・アップグレード方式 この方式では、旧リリースの Oracle Enterprise Manager Grid Control システムが稼働しているホスト上で Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c へのアップグレードを行います。稼働中のホスト上でアッ プグレードを行うため、ある程度のシステム停止時間を必要とします。
- 2システム・アップグレード方式 この方式では、既存の旧リリースの Oracle Enterprise Manager Grid Control システムが稼働していない ホストへ Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c をインストールします。 また、既存の Grid Control で使用しているリポジトリ・データベースのバックアップから作成したデータベー スをアップグレードするので、新旧2つの Oracle Enterprise Manager システムが共存することができ、シ ステム停止時間は全く発生しないか、ほぼゼロとなります。
- 異なるホストでの1システム・アップグレード方式 この方式では、既存のOracle Enterprise Manager Grid Control システムが稼働していないホストへ Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c をインストールします。
 2システム・アップグレード方式との違いは、2システム・アップグレード方式が既存のリポジトリ・データベー スのバックアップから作成したデータベースをアップグレードするのに対し、このアップグレード方式では、既 存のリポジトリ・データベース自体をアップグレードします。
 したがって、Oracle Enterprise Managerシステムは常に1つしか存在せず、ある程度のシステム停止時間 を必要とします。
 注)本資料では、この異なるホストでの1システム・アップグレード方式については取り扱いません。

2.2. アップグレード・コンソール

Oracle Enterprise Manager 12c へのアップグレードでは、アップグレード・コンソールが利用可能です。

アップグレード・コンソールを利用することによって、

- 適切なアップグレード方式の選択
- Oracle Management Agent 12c ソフトウェア(管理エージェント)の事前デプロイ

・ 旧リリースの管理エージェントから、新たにデプロイされた 12c 管理エージェントへのスイッチ・オーバー を行うことができます。

アップグレード・コンソールは、

- Oracle Enterprise Manager Grid Control 10.2.0.5
- Oracle Enterprise Manager Grid Control 11.1.0.1

に対してパッチとして提供されます。

2.3. サポートされるアップグレード・パス

次の Oracle Enterprise Manager Grid Control リリースに対して、Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c Bundle Patch 1(12.1.0.1)への直接アップグレードがサポートされます。

- Oracle Enterprise Manager Grid Control 10.2.0.5
- Oracle Enterprise Manager Grid Control 11.1.0.1

注) Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c OMS は、以前の Oracle Enterprise Manager Grid Control 10g/11g の管理エージェントとの組み合わせで使用することはできません。Oracle Enterprise Manager 12c へのアップグレードを行う際は、管理エージェントのアップグレードも必ず行ってください。

3. アップグレードの事前準備

3.1. 前提条件の確認

Cloud Control 12c OMS(管理サービス)を稼働することになるホストが、ハードウェア・ソフトウェア等の各種要件を満たしていることを確認します。

詳細については、<u>Oracle Enterprise Manager Cloud Control Basic Installation Guide</u>の以下の章を参照して ください。

- Part II Preinstallation Requirements
- Part III Installation Chapter 6, "Installing Oracle Enterprise Manager System"

また Cloud Control 12c 管理エージェントをデプロイするホストについても同様に前提要件を確認してください。 Oracle Enterprise Manger Cloud Control Upgrade Guide

<u>Appendix D Meeting Prerequisites for Installing Oracle Management Agent</u>

その他、管理リポジトリに関する前提条件を含むアップグレード作業に関する実行ステップの概要については、 以下のドキュメントを確認してください。

Oracle Enterprise Manger Cloud Control Upgrade Guide

- Part II Getting Started Chapter 4. "Upgrading with 1-System Upgrade Approach"
- Part II Getting Started Chapter 5. "Upgrading with 2-System Upgrade Approach"

3.2. 最新 OPatch の適用

現在の OMS ORACLE_HOME の OPatch を確認し、最新の OPatch を適用します。

- 1) Oracleソフトウェア所有者ユーザー(本資料ではoracle)に対して環境変数が正しく設定されていることを確認します。
- <ORACLE_HOME>: OMS ホーム (例: /scratch/OracleHomes/oms10g)
- <PATH>: <ORACLE_HOME>/bin および<ORACLE_HOME>/OPatchを追加

2) 現在の OPtach バージョンを確認します。

\$ <ORACLE_HOME>/OPatch/opatch version

```
例)
[oracle@techqajp01 oms10g]$ <u>$ORACLE_HOME/OPatch/opatch version</u>
Invoking OPatch 10.2.0.4.5
OPatch Version: 10.2.0.4.5
OPatch succeeded.
```

3) 既存の OPatch ディレクトリを OPatch 最新バージョンの zip ファイルを解凍して置き換えます。

```
例)

[oracle@techqajp01 ~]$ <u>cd /scratch/OracleHomes/oms10g</u>

[oracle@techqajp01 oms10g]$ <u>mv OPatch OPatch.102045</u>

[oracle@techqajp01 oms10g]$ <u>unzip p6880880_102000_Linux-x86-64.zip</u>

Archive: p6880880_102000_Linux-x86-64.zip

creating: OPatch/

creating: OPatch/ocm/

extracting: OPatch/ocm/cm.zip

creating: OPatch/ocm/lib/

inflating: OPatch/ocm/lib/osdt_jce.jar

...

[oracle@techqajp01 oms10g]$ <u>./OPatch/opatch version</u>

Invoking OPatch 10.2.0.5.1

OPatch Version: 10.2.0.5.1
```

3.3. 前提パッチの適用

Grid Control 10g/11g から Cloud Control 12c Bundle Patch 1 ヘアップグレードする際には、それぞれ以下の前提パッチの適用が必要です。

- Oracle Enterprise Manager 10.2.0.5 Grid Control からのアップグレードの場合: OMS ORACLE_HOME へ PSU3(パッチ 9282397)以上が適用されていること。
- Oracle Enterprise Manager 11.1.0.1 Grid Control からのアップグレードの場合: OMS ORACLE_HOME へ PSU1(パッチ 10065631)以上が適用されていること。

これら前提 PSU が未適用の場合は適用します。

3.4. アップグレード・コンソール・パッチの適用

OMS ORACLE_HOME ヘアップグレード・コンソール・パッチを適用します。

1) 以下の URL より、最新のアップグレード・コンソール・パッチをダウンロードします。 http://www.oracle.com/technetwork/oem/grid-control/downloads/oem-upgrade-console-502238.html

10.2.0.5 の場合: Pre-upgrade console patch for 10.2.0.5 Grid Control 11.1.0.1 の場合: Pre-upgrade console patch for 11.1.0.1 Grid Control

- 2) Oracle ソフトウェア所有者ユーザー(本資料では oracle)の環境変数が正しく設定されていることを確認します。
- <ORACLE_HOME>: OMS ホーム(例: /scratch/OracleHomes/oms10g)
- <TNS_ADMIN>: リポジトリ・データベースの ORACLE_HOME/network/admin (例: /scratch/OracleHomes/db10g/network/admin)
- <PATH>: <ORACLE_HOME>/bin および<ORACLE_HOME>/OPatchを追加

3) opatch が正しく動作することを確認します。

```
例)
[oracle@techgajp01 oms10g]$ $ORACLE HOME/OPatch/opatch lsinventory
Invoking OPatch 10.2.0.5.1
Oracle Interim Patch Installer バージョン 10.2.0.5.1
Copyright (c) 2010, Oracle Corporation. All rights reserved.
Oracle \pi-\Delta : /scratch/OracleHomes/oms10g
中央インベントリ : /scratch/oraInventory
  元
          : /etc/oraInst.loc
OPatch のバージョン : 10.2.0.5.1
OUI のバージョン
                 : 10.2.0.5.0
OUI の場所
           : /scratch/OracleHomes/oms10g/oui
ログ・ファイルの場所:
/scratch/OracleHomes/oms10g/cfgtoollogs/opatch/opatch2012-07-26 23-21-46 午後.log
Patch history file:
/scratch/OracleHomes/oms10g/cfgtoollogs/opatch/opatch history.txt
Lsinventory Output file location :
/scratch/OracleHomes/oms10g/cfgtoollogs/opatch/lsinv/lsinventory2012-07-26 23-21-
46午後.txt
                          _____
インストールされた最上位製品(2):
Oracle Enterprise Manager Patchset
                                                                 10.2.0.5.0
Oracle Enterprise Manager Grid Console
                                                            10.2.0.3.0
この Oracle ホームには 2 の製品がインストールされています。
OPatch succeeded.
```

注) ORACLE_HOME 環境変数へ OMS_HOME が正しく設定されていないと、誤ったディレクトリへパッチの適用を行おうとしてエラーが発生します。

4) ステップ 1)でダウンロードした、アップグレード・コンソール・パッチを OMS 上で解凍します。

```
例)
[oracle@techqajp01 ~]$ <u>cd /home/oracle</u>
[oracle@techqajp01 oracle]$ <u>unzip p13943512 102050 Generic.zip</u> (10.2.0.5 の場合)
[oracle@techqajp01 oracle]$ <u>unzip p13943512 111010 Generic.zip</u> (11.1.0.1 の場合)
[oracle@techqajp01 oracle]$ <u>cd 13943512</u>
```

5) OMS を停止します。(リポジトリ・データベースとリスナーは起動したままにしておきます)

例)

(10.2.0.5 の場合)

[oracle@techqajp01 oms10g]\$ \$ORACLE HOME/opmn/bin/opmnctl stopall
opmnctl: stopping opmn and all managed processes...

(11.1.0.1 の場合)

[oracle@techqajp01 oms10g]\$ <u>\$ORACLE HOME/bin/emctl stop oms -all</u>

6) アップグレード・コンソール・パッチを適用します。

```
[oracle@techqajp01 13943512]$ pwd
/home/oracle/13943512
[oracle@techqajp01 13943512]$ $ORACLE HOME/OPatch/opatch apply
Invoking OPatch 10.2.0.5.1
Oracle Interim Patch Installer バージョン 10.2.0.5.1
Copyright (c) 2010, Oracle Corporation. All rights reserved.
Oracle ホーム
               : /scratch/OracleHomes/oms10g
中央インベントリ : /scratch/oraInventory
  元
           : /etc/oraInst.loc
OPatch のバージョン : 10.2.0.5.1
OUI のバージョン
              : 10.2.0.5.0
OUI の場所
           : /scratch/OracleHomes/oms10g/oui
ログ・ファイルの場所:
/scratch/OracleHomes/oms10g/cfgtoollogs/opatch/opatch2012-07-26 23-34-08 午後.log
Patch history file:
/scratch/OracleHomes/oms10g/cfgtoollogs/opatch/opatch history.txt
ApplySession は仮パッチ'13943512'をOH '/scratch/OracleHomes/oms10g'に適用中
Running prerequisite checks...
セキュリティの問題について通知を受ける電子メール・アドレスを指定し、Oracle Configuration
Manager をインストールして開始してください。My Oracle Support の電子メール・アドレス/ユーザー名を使用す
ればより簡単です。
詳細は http://www.oracle.com/support/policies.html にアクセスしてください。
電子メール・アドレス/ユーザー名:
セキュリティの問題について通知を受け取るための電子メール・アドレスが指定されていません。
セキュリティの問題に関する通知を今後も受け取りませんか([Y]はい、[N]いいえ) [N]: Y
OPatchによりインベントリから非クラスタのOracleホームが検出されたため、ローカル・システムにのみパッチが適
用されます。
Oracle ホームのファイルとインベントリをバックアップ(自動ロールバック用ではない)しています
パッチ!13943512!の影響を受けるファイルをリストア用にバックアップしています。少し時間がかかります...
パッチ!13943512!の影響を受けるファイルをロールバック用にバックアップしています。少し時間がかかります...
...
75 [main] DEBUG emSDK.util.help - processing config file locale : fr
89 [main] DEBUG emSDK.util.help - processing config file locale : ja
100 [main] DEBUG emSDK.util.help - processing config file locale :
115 [main] DEBUG emSDK.util.help - processing config file locale :
                                                                 ko
                                                                 _pt BR
124 [main] DEBUG emSDK.util.help - processing config file locale :
134 [main] DEBUG emSDK.util.help - processing config file locale :
                                                                  zh CN
                                                                  zh TW
143 [main] DEBUG emSDK.util.help - processing config file locale : _it
Return Code = 0
OPatch succeeded.
```

7) インストール後スクリプトを実行します。

例)

(10.2.0.5の場合)

[oracle@techqajp01 oms10g]\$ <u>\$ORACLE_HOME/bin/sqlplus sys@emrep as sysdba</u>

SQL> <u>@\$ORACLE_HOME/sysman/preupgc/puc_dblink_pkgdef.sql</u>

Package created.

No errors.

Package created.

SQL> <u>@\$ORACLE_HOME/sysman/preupgc/puc_dblink_pkgbody.sql</u>

Package body created.

No errors.

Package body created.

SQL> <u>conn</u> sysman@emrep

SQL> <u>@\$ORACLE_HOME/sysman/preupgc/pre_upg_console.sql</u>

PL/SQL procedure successfully completed.

PL/SQL procedure successfully completed.

PL/SQL procedure successfully completed.

Commit complete.

(11.1.0.1 の場合)
[oracle@techqajp01 oms10g]\$ \$ORACLE_HOME/bin/rcuJDBCEngine
sys/password@DBHOST.oracle.com:1521:emrep_JDBC_SCRIPT
\$ORACLE_HOME/sysman/preupgc/puc_dblink_pkgdef.sql

[oracle@techqajp01 oms10g]\$ \$ORACLE_HOME/bin/rcuJDBCEngine sys/password@DBHOST.oracle.com:1521:emrep_JDBC_SCRIPT \$ORACLE_HOME/sysman/preupgc/puc_dblink_pkgbody.sql

[oracle@techqajp01 oms10g]\$ \$ORACLE_HOME/bin/rcuJDBCEngine sysman/password@DBHOST.oracle.com:1521:emrep_JDBC_SCRIPT \$ORACLE_HOME/sysman/preupgc/puc_upg_console.sql 8) OMS を起動します。

例)

[oracle@techqajp01 oms10g]\$ \$ORACLE HOME/bin/emctl start oms Oracle Enterprise Manager 10g Release 5 Grid Control Copyright (c) 1996, 2009 Oracle Corporation. All rights reserved. opmnctl: opmn started Starting HTTP Server ... Starting Oracle Management Server ... Checking Oracle Management Server Status ... Oracle Management Server is Up.

9) Oracle Enterprise Manager Grid Control コンソールヘログインし、「デプロイ」タブからアップグレード・コン ソールが利用可能となっていることを確認します。

GRACLE Enterprise Manager 10g		ホーム	ターゲット テプロイ フラート
一般 プロモジョニング			
デプロイ			
Oracleホーム用クリティカル・パッチ・アドバイサ パッチ・アドバイサ 0 (1) パッチ・アドバイサ 0 (1) パッチ・アドバイサ Wy Oracle Support 彩像を受けるOracleホーム 0 ジョブ HetrashFromMvOr デブロイ・サマリー	情報が失効している可能性があります。 別フレッシュ・ジョナが読ま72時間の間正 achif5upport1	海に面付るれていません。	【要 Enterprise Managerは、ホストとそのオペレ 間する詳細情報を保持します。「デフロイ・ されるので、個々のコンボーネントを増択し 「構成」ページからも利用できます。デフロイ ・詳細情報に関する検索を実行。 ・ホストとデータペースの詳細情報を My Oracle Supportでのパッチを構 データペースまたはOracleホームを () 構成の収集コロイスを発現。
表示 アーダハースの1 ノストール M			 デブロイメント・ブロシージッを使用し
データペースのインストール	ターグット	インストール 傷別パッチ 連用	
Oracle Database 10g 10.2.0.5.0	1	1002	
アップグレード			
Enterprise Manager 12cPo221-K-129-A			
構成		Normal State	
推需		構成のインホート	

4.「1 システム・アプローチ」によるアップグレード

4.1. アップグレード環境

本章で使用するアップグレード環境は以下の通りです。

<u>アップグレード前(既存) Oracle Enterprise Manager 10g Grid Control 環境</u>

ホス	ト

ホスト名	cdcjp74vm5.cn.oracle.com
オペレーティング・システム	Oracle Linux 5 Update 7 for x86_64(64bit)
Oracle ソフトウェア所有者ユーザー (Oracle Enterprise Manager/リポジトリDB)	oracle(グループ: oinstall、dba、oper)

Oracle Enterprise Manager

管理サーバー(OMS)	Oracle Enterprise Manager Grid Control 10.2.0.5
OMS_HOME	/home/oracle/OracleHomes/oms10g
管理エージェント	Oracle Enterprise Manager Grid Control 10.2.0.5
AGENT_HOME	/home/oracle/OracleHomes/agent10g

リポジトリ・データベース

データベース・リリース	Oracle Database10.2.0.5
SID	emrep
ORACLE_HOME	/home/oracle/OracleHomes/db10g

cdcjp74vm5.cn.oracle.com



<u>アップグレード後 Enterprise Manager Cloud Control 12c 環境</u>

/		
	ホスト名	cdcjp74vm5.cn.oracle.com
	オペレーティング・システム	Oracle Linux 5 Update 7 for x86_64(64bit)
	Oracle ソフトウェア所有者ユーザー (Oracle Enterprise Manager/リポジトリDB)	oracle(グループ: oinstall、dba、oper)

Oracle Enterprise Manager

管理サーバー(OMS)	Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12.1.0.1 (BP1)
OMS_HOME	/u01/app/Middleware/oms
管理エージェント	Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12.1.0.1 (BP1)
AGENT_HOME	/home/oracle/OracleHomes/agent12g

リポジトリ・データベース

データベース・リリース	Oracle Database 11.2.0.3
SID	emrep
ORACLE_HOME	/u01/app/oracle/product/11.2.0/dbhome_1



cdcjp74vm5.cn.oracle.com

4.2. アップグレード・コンソールによる作業

4.2.1. アップグレード・タイプの選択

1) EMGC コンソールから「デプロイ」タブ → 「Oracle Enterprise Manager 12c アップグレード・コンソール」 を選択し、アップグレード・コンソールを開きます。

GRACLE Enterprise Manager 10g		ホーム	ターゲッ デブロイ ラート
一般 プロビジョニング			
デプロイ			
Oracleホーム用クリティカル・パッチ・アドパイザ パッチ・アドパイサ 0 (1) パッチ・アドパイサ 0 (1) パッチ・アドパイサ W Oracle Support 影響を致けるOracleホーム 0 ジョブ BetrackFromMvOr デブロイ・サマリー	情報が失敗している可能性があります。 別フレジュ・ジョンが過去72時間の個面 factin Support1	海に面付きれていません。	概要 Enterprise Managerは、ホストとそのオペレ 関する詳細情報後 (月均します。「デフロイ・ されるので、個々のコンポーネントを選択し 「構成」ページがらも利用できます。デフロ ・ 詳細情報に関する教業を実行。 ・ ホストとデータペースの詳細情報度 0 My Oracle Supportでのパッチを接 ・ データペースまたはOracleホームを)
表示 データベースのインストール			 構成の取業プロセスを管理。 デプロイメント・プロシージャを使用し
データペースのインストール	ターパット	インストール 保切パッチ通用	[
Oracle Database 10g 10.2.0.5.0	1	1.002	
アップヴレード Enterprise Manager 12cアップグレード・コンソール			
構成		構成の七/ホート	

2) 「アップグレード・タイプの選択」の中から「1 システム」を選択します。

Grid Control			ホーム ターゲット デプロイ
● 般 プロビジョニング			
アッフクレード・コンソール			
アップグレード・コンソールは重要なユーザー・イン 択し、既存のEnterprise Managerシステムをスム	タフェースで、ここからEnterprise Manage .ーズかつシームレスな方法でアップグレー	r 10g Grid Controリリース5 (10.2.0.5.0)からEnterpris ドします。	se Manager 12c Cloud Controlリリース1 (12.1.0.1
エージェントのアップグレード・ステータス		その他のリンク	その他のリンク
	成功 <u>0</u>	<u>エージェントのアップグレード・ステータス</u>	Enterprise Ma
	失敗 0	<u>ターゲットのアップグレード可能性ステータス</u>	Enterprise Ma
	進行中 0	<u>問題のあるエージェント</u>	Enterprise Ma
	未開始 1	再構成が必要なエージェント	<u>7ット</u>
	サポートされていません 0	<u>Broken Targets</u>	Enterprise Ma
A	gents with Valid Inventory <u>1</u>		
12/52	√トリが無効のエージェント <u>0</u>		
(エージェントとターゲットのリ	ストのリフレッシュ)		
アップグレード・タイプの選択			
● 1システム	♂ヒント 既存のEnterprise Man	agerシステムを停止し、同じホストでアップグレードしま	ます。
<u>○2システム</u>	Øヒント Enterprise Managerシ	ミテムを別のホストに新たにインストールする間、新しい	いシステムにスイッチオーバーするまで 既存のEnter
○ 異なるホストでの1システム	⊗ヒント 既存のEnterprise Man	agerシステムを停止し、別のホストでアップグレードしま	ます。
アップグレード 前のステップ			

4.2.2. アップグレード前のステップ

アップグレード 前のステップ	
OMSとエージェントをアップグレードする前に、次の手順を実行します。	
フェーズ名	説明
概要	アップグレード・プロセスの概要を取得します。
Configure Postupgrade Tasks	Configure Postupgrade Tasks
<u>ソフトウェアの管理</u>	Enterprise Managerシステムのアップグレードに必要なソフトウェアを管理します。

- 1) 「概要」から、1システム・アプローチによるアップグレード作業の流れを確認することができます。
- デフォルトの設定では、アップグレード直後に Cloud Control 12c はメトリック、構成情報などといった時系 列データをアップグレード前の Grid Control 10g/11g リリース形式から Cloud Control 12c に対応する形式 へ変換するジョブ (DDMP ジョブ)を実行します。

変換対象となるデータ量が多くなると、これらのジョブによる管理リポジトリの負荷が高くなりますが、特に1 システム・アプローチによるアップグレードでは、同様にアップグレード直後からすべてのエージェントによる データのアップロードも実行されるため、リソース不足を引き起こす可能性があります。

「Configure Post Tasks」から「Disable automatic DDMP jobs」を有効にすると、データ変換ジョブ (DDMP ジョブ)をアップグレード後にマニュアルで実行することができるので、この問題を回避することがで きます。

ORACLE Enterprise Manager 10g	<u>ホーム ターゲット</u> デプロイ
一般 プロビジョニング	
Configure Postupgrade Tasks	
① 情報 値は正常に保存されました。	
By default, soon after the upgrade, Enterprise Manager Cloud Control automatically runs the deferred data migration process (DDMP) earlier release of Enterprise Manager to the format compatible with Enterprise Manager Cloud Control. Depending on the size of your longer time to complete. In particular, when you upgrade using the 1-system upgrade approach, you might face resource contention as may choose to disable the auto-run of these DDMP jobs. If you do so, you must run these jobs later explicitly from the Post Upgrade Disable automatic DDMP jobs	jobs. These jobs migrate historical data such Enterprise Manager system, these jobs consu s all the Management Agents will be up and n Fasks page within the Enterprise Manager Clo

 「ソフトウェアの管理」からアップグレードに必要となるエージェント、プラグイン・ソフトウェアを確認します。 画面にリストされたアップグレードに必要なソフトウェアを、以下の URL からダウンロードし、OMS ホストの 適当なディレクトリに配置します。

http://www.oracle.com/technetwork/oem/grid-control/downloads/oem-upgrade-console-502238.html

エージェント・ソフトウェア 注意: 管理エージェントは、コア・ソフトウ	りょアなしではアップグレードできません。			
38-1-9138-41-9	739174-4	15-250	971017の場所で使用可能(040)	
エージェント・コア・ソフトウェア	Linux x85-54 (AMD64/EM54T)	121010	使用不可	
70040-935017 1-01042-79740-9710178 27840-8	いこはアップグレードできません。ただし、遊材された場合、モ プラダインの説明	のフラクインによって監視されているター ブラットフォーム	Yっトは、アップリレードしたTecorpose Managerンステムから新聞終わます シットウェアム 単調さ 後取引 第(UNID)	9791400-7
プラワイン・ソフトウェア エージェノは、フラヴィン・ソフトウェアな プラクイン系 ende wenn 色	いてはアップクレードできません。ただし、道訳された場合、モ プラグインの12月 Outle Database Fisses	07594.JCよって監視されていたろ〜 プラナネフォーム Genery Platform	ゲットは、アップリレードしたEncorpoise Managerンステムから新聞送れます ジットウェアムが 単原子 使用可 第(Unita) 使用不可	9292#460-#
プラリイン・リフトウェア エージェントは、フラウイン・ソフトウェアな オフタインホ ereck symmet & which symmet &	いたはアップクレードできません。たたし、猫和された場合、モ プラダインの頃間 Oncide Databolis Phage Oncide Databolises	0799インによって監護されていたター プラナネフォーム Generic Patforn Connic Patforn	Yo 1 は、アップクレードしたTecorpose Managerンステムから各国総されます シットジェアムの場所で使用で1歳(UNIII) 使用で可 使用で可	3%76.0409-7 1 7
プラリイン・ソフトウェア エーリントは、フラヴィン・ソフトウェアは プラリインネ。 enade symmen dh enade symmen dh enade symmen dh	いたはアップグレードできません。たたし、道和された場合、モ プラグインの(成明) Oracle Databasic Physics Oracle OcacleNeers Oracle Cheer System Academic	0750インによって監視されているター プララネフォール Generic Partform Generic Partform Generic Partform	Yold、アップリレードしたEncorpose Manageのステムから新聞はされます シストウェアムの場所を使用する(Onlin) 使用を可 使用不可 使用不可	- 3737770000-7 2 1
2004 (2009) 2010 2010 E - 012/14 - 7994 (2009) 2010 2010 2026 (2046) ande symmeth ande symmeth ande symmetha ande symmetha	はこはアップグレードできません。たこし、裏対された場合、モ プラグインの100号 Osocie Dosobarie Phages Osocie Osoció Rese Onacie Chard System Anshyser Osocie Fasoon Statiane im Phages	0759712/C42C Bill 77 CV89- 7333274-5A Generic Partners Generic Partners Generic Partners Generic Partners	Yold、PoブリレードLまTecorpose Managerンステムから新聞起れます ソフトウェアの 単語を使用す(業)(DMB) 使用不可 使用不可 使用不可 使用不可 使用不可	9292#4669-4 9 1 7
300409-905018 E-02014-00540-9010274 958404 onde symmeth onde symmeth onde symmeth onde symmeth onde symmethe	いたはアップクレードできません。たたし、猫神たれた場合、モ アラグイン(A) (現代) Onacife David/Sovie Plagan Onacife Charle Plagan Onacife Charle Plagan Onacife Plagan Analysm Onacife Plagan Schiller vier Plagan Onacife Vianagesternt And Repuestory Plagan	0759インによって監視されていたター プラナトフィーム Generic Pattern Generic Pattern Generic Pattern Generic Pattern Generic Pattern	Yold、アップクレードしたTecorpose Managerンステムから新聞終れます シストウェアの 場所で 使用です 第(DMB) 使用です 使用です 使用です 使用です 使用です 使用です (使用です)	22 2 1 1 1

注) ダウンロードした ZIP ファイルは解凍しないでください。

画面の例の場合であれば、次のソフトウェア・ファイルが必要となります。 12.1.0.1.0_AgentCore_226.zip 12.1.0.1.0_oracle.sysman.beacon_2000_0.opar 12.1.0.1.0_oracle.sysman.csa_2000_0.opar 12.1.0.1.0_oracle.sysman.emrep_2000_20120427.opar 12.1.0.1.0_oracle.sysman.oh_2000_20120211.opar 12.1.0.2.0_oracle.sysman.db_2000_20120704.opar 12.1.0.2.0_oracle.sysman.emas_2000_20120704.opar

4) 3)で用意したソフトウェア・ファイルを配置したディレクトリを「ソフトウェアの場所」に指定して、「検証」をクリ ックします。

検証のジョブが完了し、「エージェント」「ターゲット」のアップグレード可能性がすべてアップグレード可能(緑 色の円グラフ)となっていることを確認します。

GRACLE Enterprise Manager 10g Grid Centrol	ホーム ターゲット デブロイ アラート コンプライアン
- 焼 プロピジョニング	
2920-F-2-0-k >	
リノドウエアの管理	
①情報	
 エージェント・ソフトウェアのソフトウェア情報を正常に検証し、乾谷しました。home versions_apprain12; The Management Agent software LL10.10_AgentCure_226.xip you have provided requires pitcht to 3554ン・ソフトウェアを正常に推出し、ディレクトリに保存しました Accountractions_apprain12cplugin_ 	e/12.1.0.1.0_AgendCare_226.stp he applied on the 12c upgraded OMS. htp://For-more.dom/it.check.log.ac.location="flooms/oracle/or_upgrade12ctplugin_Ma"
已確認	
第1行されたジョブRefreshAndValidateTargers_2011_07_27_02_01_36_629	
	and the second
エージェントのアップグレード可能性	ターゲットのアップグレード可能性
100% 文法LIUS255242779221-F可能的	100% X&LIGS75242-27192F 033
ソフトウェアの場所の指定	
必須75ットフォーム用のエージェント・ソフトウェアと関連プラグイン・ソフトウェアが存在する場所を入力し、検証します。	注意: ソフトウェアをステージング場所にコピーする際、350ルール ・コア・エーウェント・ソフトウェアとブラウイン・ソフトウォ レベルコピー」また
* ソフトウェアの場所 /home/oracle/sw_upgrade12c	■ DVDまたはMOS均ら入手したソフトウェアをコピーし
「逆ビント推動のSIG環境の場合は、すべてのGNISで共有どれる場所を入力します。	身を抽出しないで(ださい)。何:131000_AgentC 121000_oracle sysman_db_2000_0.enex
感とつきこの場所でリフトウェアの道知時たは副除を行った場合は、「検証」をクリックしてすべてのリフトウェアを再発狂しま	 It is recommended that you go through the certainty

検証ジョブ、正常終了後の画面



4.2.3. エージェントのアップグレード処理

1) アップグレード・コンソールから「エージェントのデプロイと構成」を選択します。

エージェントのアップグレード処理	
エージェントをアップグレードするには、次の手	順を実行します。エージェントの数が多い場合、1回目に1セットのエージェントをアップグレードし、2回目に次のセットを
フェーズ名	説明
<u>エージェントのデブロイと構成</u>	すべての 管理対象ホストで Oracle Management Agent 12cリリース1 (12.1.0.1.0)のインストールと構成を 行います。
<u>デプロイ済エージェントのシステム状態レポー 成</u>	<u>トの生</u> デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーする前に、そのエージェント のシステム状態レポートを生成します。
<u>デプロイ済エージェントのシステム状態レポー インオフ</u>	<u>トのサ</u> デブロイ済エージェントに対して生成されたシステム状態レポートを確認し、サインオフします。
<u>エージェントの切替え</u>	デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーします。

2) 必要に応じて任意の操作名(ジョブ名)を指定します。

「操作タイプの選択」オプションに ・エージェントとプラグイン・ソフトウェアのデプロイ

- ・エージェントとプラグイン・ソフトウェアの構成
- がどちらも選択されていることを確認します。

「検索」をクリックして、アップグレードを行う管理エージェントを検索し、リストへ表示します。

ORACLE Enterprise Manager 10g		ホーム ターゲット デプロイ
一般 プロビジョニング <u>アップグレード・コンソール</u> > エ、 ミュンサール ====================================		
エーンエントのナフロ1と構成		
* 操作名 Deploy_2012_07_27_02_06_16_1		
 場合を入一の選択 デラロイのみ、デラロイと構成の両方、デフロイ済ソフトウェア・バイナリの構成のみの 図エージェントとプラヴイン・ソフトウェアのデプロイ 図エージェントとプラヴイン・ソフトウェアの構成 	操作タイプから選択します。	
	法日本 禁锢 テレジョン しのも 秋田 フレギり キオ	
この様にの美行対象の管理エージェントを使来し、遅かしより。この様にの美行に エージェント フラットフォーム	1002皆理エーシェントのみかりストされます。 ↓ すべて	
^{グループ} グループの選択 💌	バージョン すべて	検索
(追加) (関連エージェントの追加) (削除) 口すべてのコ	□-ジェントに同じパスを使用 □任意の即	既存ディレクトリの上書き □Cleanup I
<u>すべて選択 選択解除</u> 確取 エージェント	古いエージェント・ホーム 1	「ーヴェント・ペース・ディレクトリ
cdcjp74vm5.cn.oracle.com:3872	/home/oracle/OracleHomes/agent10g	/home/oracle/OracleHomes/agent12

- 3) 管理エージェントのリストの中から、アップグレード処理を行うエージェントを選択し、Cloud Control 12c エ ージェント用の
 - エージェント・ベース・ディレクトリ
 エージェント・インスタンス・ホーム
 を指定します。

注) エージェント・ベース・ディレクトリに<Middleware_HOME>を指定することはできません。 エージェントのインストール・ベース・ディレクトリには 110MB 以上の空き容量が必要です。

「エージェント資格証明」に、「Oracle ホーム優先資格証明を使用」または「Oracle ホーム優先資格証明の オーバーライド」を指定します。

(本資料では Oracle ホーム優先資格証明のオーバーライドを使用)

席田 エージェント				古いエージェント・ホーム	エージェント・ペース・ディレクトリ	エージェント・インスタンス・ホーム
dep/4vm5.cn	engls con 33	12		home oracle OracleHomes agent10g	(home/oracle/OracleHomes/agent12)	/home/oracle/OracleHomes/agent12
「ージェント資格」	正明					
この操作に使用するう	產格區明:09-1	フを選択します。には前に	099-20I-3	いたに使用したのと同じ流格証明を必ず使用し	てくささい。遺格証明のオーバーライドを選択する場合、	すべてのOracleホームに使用される資格証明が
© Oracle# - ∆ ∰	先還格証明を	使用		③ Orieteホーム優先道格証明会オーバーライド		
	=2-#-	% oracle				
	= /\$25	-*				
	*/127-F@	通辺 ・・・・・				
起13 相同於						
@#L			-			
OSUDO	* 對名實行	0				
water and		(M minuber)	-			
O Power Broker	*别名集行		70774%			
		(99) . (nimaganti)		(PPL admin()		

入力内容が正しいことを確認して、「次へ」をクリックします。

4) 管理エージェント・ホスト上で root.sh を実行するための「ルート資格証明」を設定します。

<mark>○RACLE Enterprise Manager 10g</mark> Grid Control ホーム ターゲット デプロイ 一般 ↓ プロビジョニング
争 回」テプロイ・オブンヨン(オブンヨン) このオブションは、管理エージェントのソフトウェア・バイナリをデプロイする前に、コマンドまたはスクリプトを実行する必要がある場合に有効化します。
□事前コマンドノスクリプトの実行
構成後オプション(オプション)
ルート資格証明
root.shを実行するには、rootユーザー・アカウントの資格証明を入力します。これは、Windowsエージェントのみのアップグレードを選択した場合のオプションです。これらのコマンドまたはスクリ し、権限のある別のユーザー・アカウントにスイッチオーバーするための必要な詳細を入力してください。
*ユーザー名 root
*パスワード ••••••
*パスワードの確認
○ SUDO * 別名実行 root
(柄: odmagent)
○ Power * 別名実行 root プロファイル Perder
Control (19): odmagent) (19): admin) Ø ヒント SUDOまたはPower Brokerを選択する場合は、ホスト・ターゲットに権限設定が行われていることを確認してください。 権限委任設定の管理

入力内容が正しいことを確認して、「送信」をクリックします。

5) 2)の操作名でジョブが発行されるので、ジョブが正常終了していることを確認します。

72-X4	11.11	未開業	建作用	法教	
一切主计位于了自己紧张。	すべての音運対象ホストでOracle Management Agent 12がリース1(121113)のインストールと構成を PR(ます。	1		4	1
プロ行論エージェントロシステム就量レポートの生	デプロイ演工(ジェントを教授員Stanagero ステムに入引オチオーバーする第二、そのエージェント のシステム状態にポートを主席に走す。	k.	<u>0</u>	di i	ų.
プロイはオージェントのシステム状態レポートのサ シオス	デブロイ演えージェントに対応で完成されたシステム状態しポートを確認し、サインオフします。		NA.	S.A.	<u>u</u> .
ージョントの切響を	デブロイ液エージェントを新聞Emergenie Managerシステムにスイッチオーバーします。	1	0	1	9

6) 次に、「デプロイ済みエージェントのシステム状態レポートの生成」を選択します。

エージェントのアップグレード処理					
エージェントをアップグレードするには、次の手順を実行します。エージェントの数が多い場合、1回目に1セットのエージェントをアップグレードし、2回目に次のセットを					
フェーズ名	説明				
<u>エージェントのデブロイと構成</u>	すべての管理対象ホストでOracle Management Agent 12cJリース1 (12.1.0.1.0)のインストールと構成を 行います。				
デブロイ済エージェントのシステム状態レポートの生 成	デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーする前に、そのエージェント Dシステム状態レポートを生成します。				
テプロイ済エージェントのシステム状態レポートのサ インオフ	デプロイ済エージェントに対して生成されたシステム状態レポートを確認し、サインオフします。				
<u>エージェントの切替え</u>	デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーします。				

7) 必要に応じて任意の操作名(ジョブ名)を指定します。

「検索」をクリックして、アップグレードを行う管理エージェントを検索し、リストへ表示します。

ORACLE Enterprise Manager 10g		ホーム ターゲット デプロイ	(7
 一般 プロビジョニング アップグレード・コンソール > 			
デプロイ済エージェントのシステム状態レポートの生成			
デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーする前に、 入力の指定	そのシステム状態を確認します。		
* 操作名 HealthCheck_2012_07_27_02_31_ この新作の 意の名前をついたます。			
以前の操作からのエージェントをロードします。	《 実行		
検索エージェント この操作の実行対象の管理エージェントを検索」。選択します。この操作の実行に	適」た管理エージェントのみがリストされます。		
I-91224	. すべて <u>・</u>		
ヴループ グループの選択 🚩	バージョン すべて 🜱	検索	
(追加) (関連エージェントの追加) (削除)			
<u>すべて選択 選択解除</u>		WHO IL I	tr' da
Cdcjp74vm5.cn.oracle.com:3872	/home/oracle/OracleHomes/agent10g	/home/oracle/OracleHomes/agent12g	和規 /home

8) 管理エージェントを選択し、「エージェント資格証明」に、「Oracle ホーム優先資格証明を使用」または 「Oracle ホーム優先資格証明のオーバーライド」を指定します。 (本資料では Oracle ホーム優先資格証明のオーバーライドを使用)

			II Original - A	TE EFOrmeta # = A	BE WEITER BUILD	1.2.1.1
Complementation of the concil	12		nome wrache OracleSionses agenting	hour oracle DrackSlonet agentL2g	Bone ande OracleHones agentUg agent_mot	2
- ジェント 昇島証明 の操作に使用する波格証明のター ○ Oracle# - ム勇先遅希証明	(フを選択します。 以前の) 1注用	91-7.01-7-5 ki	(使用したのと同じ資格証明後必ず使用して) (letek - ム優夫道格証明のオーバーライド	だろい。資格証明のオーバーライドを選択する場合	t、すべてのOracleホームに使用される場合証明のセットをつ	入力します
*1-4.	s oracie	\neg				
=/12	9-K					
*/12/2-80	······					
:行権限 8なし						
SLDO + 訳名東IF	1	1				
	(M plaque)					
D Power Broker + M&#ff</td><td></td><td>70714</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>the second se</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>D Power Broker + N&WIT</td><td>(州 pillingent) を創新する株士(王) 未2)</td><td>プロファイル (用</td><td>(1994) 国外行われていることを発行してくたらい。様式</td><td>「「「「「」」」」」」」</td><td></td><td></td></tr></tbody></table>						

入力内容が正しいことを確認して、「送信」をクリックします。

9) 7)の操作名でジョブが発行されるので、ジョブが正常終了していることを確認します。

エージェントのアップグレード 処理 エージェントをアップグレードするには、次の市場を1	町月します。エージョントの数がるcr場合、「営用に1セットのエージョントキアップグレードL、工業目に200セット	キアッフグレードするよ:	痛用できます。この場合、	1082522300 # 1082	englat.
リューズ名	IX III	- 開始	建物	失期	成功
1-日4公共的王才四经编成	オペアの管理対象ホストでOracle Xianagement Agent (2019) - ス1(1210,10(0)インストールと構成を 行います。	9	2	8	1
デクロイボエージョントのシスタム世際レオートの生 感	ダブロイ清エージェントを新聞Enterprise3Ganagerシステムにスイッチオーバーする 敬江 そのエージェント のシステム 状態しポートを生成します。	0	2	1	
子グロイ湾エージェントのシステム状態レポートのサ インオス	デフロイ清エージェントに対して生成されたシステム状態レポードを確認。サインオフレます。	1	N-A	N:A	U.
エージェンドの技能力	ダブロイ清エージェントを新加Emophie Minaged/ステムにスイッチオーバーします。	1	4	1	9

10) 次に、「デプロイ済みエージェントのシステム状態レポートのサインオフ」を選択します。

エージェントのアップグレード処理		
エージェントをアップグレードするには、次の手順を実	(行します。エージェントの数が多い場合、1回目に1セットのエージェントをアップグレードし、2回目に次のセ	ットを
フェーズ名	説明	
<u>エージェントのデプロイと構成</u>	すべての管理対象ホストでOracle Management Agent 12cリリース1 (12.1.0.1.0)のインストールと構成を 行います。	
<u>デプロイ済エージェントのシステム状態レポートの生</u> <u>成</u>	デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーする前に、そのエージェント のシステム状態レポートを生成します。	
デ <u>ブロイ済エージェントのシステム状態レポートのサ</u> インオフ	デブロイ済エージェントに対して生成されたシステム状態レポートを確認し、サインオフします。	
<u>エージェントの切替え</u>	デブロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーします。	

11) 各管理エージェントの「破損したターゲット」、「失敗したメトリック」列を確認し、「0」以外の値が表示されている場合は、「詳細レポートの表示」をクリックしてエラー内容を確認して修正を行った後、必要なステップを繰り返します。

GRACLE Enterprise Manager Mg				ホームショーゲット	+701 79-1 a	読定 705512	は もんご ロジンショ
一般・プロピジョニンズ							
2075に-ドエンシルト デブロイ済エージェントのシステム状態 デブロイ済L-ジェントのシステム状態	レポートのサインオフ 創し、サインオフはます。						
. 算種しポートの量光 ししポートの雑品	まとサインオブ)						
ブイエズ田 深沢新陸							
And the second second	10.04	and the second se	la serie de la compañía de la	I Party and I have been a	対象モイレカトリの内容を領域	The second second	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
確範工ージェント	14年一下村間	Page Ab	「「「「「「」」」」」」	、失敗したよりラクク	(68)	ユーデーのサインオフ	ユーザー被議団
The step that as state and The	2012-01-21 02:38:33	12 A	7	5	48.443998		×

12) 全てのエラーが修正されたら「レポートの確認とサインオフ」をクリックします。

ORACLE Enterprise Manager 10g			7	└─── ターゲット		
一般 プロビジョニング	一般 プロビジョニング					
<u> アップグレード・コンソール</u> >						
テプロイ済エージェントのシステム状態レポートのサインオフ						
デプロイ済エージェントのシステム状態レポートを確認	し、サインオフします。					
(詳細レポートの表示) レポートの確認と	(詳細レポートの表示) レポートの確認とサインオフ					
すべて選択 選択解除						
選択 エージェント	レポート時間	Pingテスト	破損したターゲット	失敗したメトリック		
cdcjp74vm5.cn.oracle.com:3872	2012-07-27 02:33:15	N/A	0	0		

13) 続いて、「エージェントの切替え」を選択します。

エージェントのアップグレード処理		
エージェントをアップグレードするには、次の手順を実	《行します。エージェントの数が多い場合、1回目に1セットのエージェントをアップグレードし、2回目に次のセ	ットを
フェーズ名	説明	
<u>エージェントのデプロイと構成</u>	すべての管理対象ホストでOracle Management Agent 12cJリース1 (12.1.0.1.0)のインストールと構成を 行います。	
<u>デブロイ済エージェントのシステム状態レポートの生</u> <u>成</u>	デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーする前に、そのエージェント のシステム状態レポートを生成します。	
<u>デブロイ済エージェントのシステム状態レポートのサ</u> <u>インオフ</u>	デプロイ済エージェントに対して生成されたシステム状態レポートを確認し、サインオフします。	
<u>エージェントの切替え</u>	デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーします。	

14) 必要に応じて任意の操作名(ジョブ名)を指定します。

「検索」をクリックして、Cloud Control 12c エージェントへ切り替えを行う管理エージェントを検索し、リストへ表示します。

ORACLE Enterprise Manager 10g		<u>ホーム</u>
● 般 プロビジョニング		
<u>アックレート・コンシール</u> マ エージェントの切替え		
デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーします。		
入力の指定		
* 操作名 SwitchAgents_2012_07_27_02_43 この操作の一意の名前を入力します。		
以前の操作からのエージェントをロードします。	美行 美行	
検索エージェント		
この操作の実行対象の管理エージェントを検索し、選択します。この操作の実行(こ適した管理エージェントのみがリストされます。	
エージェント プラットフォーム	১ রশবে 💌	
グループ グループの選択 💌	バージョン すべて 🛁	検索
(追加) (関連エージェントの追加) (削除)		
すべて選択 選択解除		
選択エージェント	旧Oracleホーム	新規Oracleホーム
cdcjp74vm5.cn.oracle.com:3872	/home/oracle/OracleHomes/agent10g	/home/oracle/Ora

15) 管理エージェントを選択し、「エージェント資格証明」に、「Oracle ホーム優先資格証明を使用」または 「Oracle ホーム優先資格証明のオーバーライド」を指定します。 (本資料では Oracle ホーム優先資格証明のオーバーライドを使用)

國際 工行学术之外。	EDnulle&-A	St Bi Ocstick ~ L	時間インスタンス・ホーム	大子一次人
177) and a strength of a set of the set of t	house stude Condefferent agentility	house made OracleHouses agont12g	house eracle Grade Houses agenting agent_tent	3
[ージョント資格証明				
この操作に使用する途密証明のタイプを理解します。以前の	リースのエージェントに使用したのと同じ直接証明を必ず使用して	(ささい) 政格証明のオーバーライドを選択する場合	8、サベモのOnscienームに使用される液態証明かせっとをに	入力します。
○ Oracletム優先這格証明後使用	③ On beキーム 優先演格証明のオーバーライド			
*2-9~≉ oracle				
*KX2-F *****				
1139-160曜辺 ●●●●●●				
約確觀				
ອະບ				
OSUDO × Bi齿南行				
184. umsapanti				
O Power Broker * 918奥竹	307948			
This with the still because the bard with the still as it	(PL MART)	12011250WH		
				ma (4
				Mary Ca

入力内容が正しいことを確認して、「送信」をクリックします。

すべての「エージェントのアップグレード処理」ステップが成功で終了していることを確認します。

エージェントのアップグレード外理 エージェントをアップグレードするCは、次の手握を見	時します。ユージェントを数が多い場合、1回日に1セットのエージェントをアップクレードし、1回日に15のセット	キャップグレードするよ	う遅れできます。この場合	1回ごとに次の手續を導い)送します。
フェーズ右	28.90	3.0016	进行中.	天朗	18.14
1-325-6月307-116	すべての管理対象ホスをでOracle Management Agent (20円-ス1(12.10.1.0)のインストーはと構成を 行います。	4		-	
デジロ(液1-010)の5プアムは数にポートの生	デブロイ湾エージェントを新規Enterprise Managerンステムにスイッチオーバーする前に、そのエージェント のシステム状態レポートを生成します。	4.	<u>n</u>	1	141
子グロビルゴーフィントのシステムは触いボートのサ ソンオン	すプロイ浦エージェントに対して生成されたシステムは除レポートを確認し、サインオフします。	1	NA.	NA	+
エージェントの切り	テプロイ海エージェントを新聞Emergeise Managerジステムにスイッチオーバーします。	4	1 1	1	1

注) 以降、監視対象ホストでは Grid Control 10g/11g 管理エージェントに代わり、pre-12c エージェントがメトリ ック・データ等の収集を行います。OMS(管理サービス)のアップグレードが完了するまではアップロードは行うこ とはできないので、収集されたデータは管理エージェント・ホスト上に保持されます。

16)「**OMSとリポジトリの手動アップグレード**」から、続くOMSおよびリポジトリのアップグレード作業の詳細を確認できるので必要に応じて参照します。

OMSとリポジトリのアップグレード 処理					
OMSとリポジトリをアップグレードするには、次の手順を実行します。					
フェーズ名	説明				
OMSとリポジトリの手動アップグレード	既存のOMSと管理リポジトリを手動でアップグレードします。				

以上で、アップグレード・コンソールによる作業は終了です。

4.3. OMS およびリポジトリのアップグレード

4.3.1. 前提条件の確認

- 1) Oracle Enterprise Manager Cloud Control Basic Installation Guide を参照し、これから OMS(管理サー ビス)のアップグレードを行う環境がハードウェア、ソフトウェア等の要件を満たしていることを確認します。 また、必要に応じてパッケージ、カーネル・パラメーター、ライブラリ要件に合わせて調整を行います。
- 2) 既存の Grid Control システムで、実行中、またはスケジュールされているデプロイメント・プロシージャがあ ればすべて停止します。
- 3) emkey を OMS から管理リポジトリへコピーします。

(10.2.0.5の場合)
\$ <OMS_HOME>/bin/emctl config emkey -copy_to_repos
(11.1.0.1の場合)
\$ <OMS_HOME>/bin/emctl config emkey -copy_to_repos_from_file -emkey_file
<OMS_HOME>/sysman/config/emkey.ora
例)
[Oracle@cdcjp74vm5 oms10g]\$ /home/oracle/OracleHomes/oms10g/bin/emctl config emley
ket y -copy_to_repos
Copyright (c) 1996, 2009 Oracle Corporation. All rights reserved.
Please enter repository password: <enter password>

The Em Key is already present in the Management Repository.

4) OMS を停止します。

(10.2.0.5 の場合) *\$ <OMS_HOME>/opmn/bin/opmnctl stopall*

(11.1.0.1 の場合) *\$ <OMS_HOME>/bin/emctl stop oms -all*

例)

[oracle@cdcjp74vm5 oms10g]\$ /home/oracle/OracleHomesopmn/bin/opmnctl stopall
opmnctl: stopping opmn and all managed processes...

4.3.2. リポジトリ・データベースのバックアップとアップグレード

- 1) 管理リポジトリ・データベースのバックアップを取得します。
- 2) 管理リポジトリ・データベースのアップグレードが必要な場合は、この時点でアップグレードを行うことができ ます。

例えば Grid Control 10g からのアップグレードで、現在管理リポジトリ・データベースには Oracle Database 10.1.0.4 を使用しているとします。

仮に Cloud Control 12c へのアップグレード後は Oracle Database 11.2.0.3 を管理リポジトリ・データベー スとして利用する場合、Grid Control 10g では Oracle Database 11.2.0.3 をサポートしていないため、Grid Control 10gがまだ稼働している時点(Oracle Enterprise Manager システムのアップグレード開始前)では、 管理リポジトリ・データベースのアップグレードを行うことができません。

ー方、Cloud Control 12c では Oracle Database 10.1.0.4 をサポートしていないため、Oracle Enterprise Manager のアップグレード完了後に管理リポジトリ・データベースのアップグレードを行うこともできません。

したがって、アップグレード・コンソールによる作業が完了し、OMS を停止した、このタイミングで管理リポジ トリ・データベースのアップグレードを実施することになります。

なお、別の例として、Grid Control 10gの管理リポジトリ・データベースにOracle Database 10.2.0.5を使用 しているような場合、Oracle Database 10.2.0.5 は Grid Control 10g でも Cloud Control 12c でもサポート されているので、管理リポジトリ・データベースのアップグレードは必須ではありません。

もし、この管理リポジトリ・データベースを Oracle Database 11.2.0.2 ヘアップグレードするのであれば、 Oracle Database 11.2.0.2 もやはり Grid Control 10g、Cloud Control 12c ともにサポートしているので、 Oracle Enterprise Manager システムのアップグレード開始前・完了後、またこのタイミングのいずれでも管 理リポジトリ・データベースのアップグレードを実施することができます。

ただし、この管理リポジトリ・データベースを Oracle Database 11.2.0.3 ヘアップグレードするのであれば、 Oracle Database 11.2.0.3 は Grid Control 10g ではサポートされていないので、このタイミングか、または、 Oracle Enterprise Manager のアップグレード完了後に管理リポジトリ・データベースのアップグレードを実 施することになります。

このように、Oracle Enterprise Manager の管理リポジトリ・データベースとしてサポートされる組み合わせ と、運用におけるシステム・ダウンタイムの影響等を考慮し、管理データベース・アップグレード計画を立て るようにしてください。

4.3.3. OMS のアップグレード

1) 「Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c Release 12.1.0.1 (Bundle Patch 1), 12.1.0.2 Plug-ins for Linux x86-64」のメディアを使用して、Oracle Universal Installer (OUI)を起動します。

Oracle ソフトウェア所有者ユーザー(本資料では oracle)で、次のコマンドを実行します。

\$ <Software_Location>/runInstaller

例)

[oracle@cdcjp74vm5 Disk1] /mnt/EM12cBP1/Disk1/runInstaller Oracle Universal Installer を起動中です...

一時領域の確認中: 400 MBを超えている必要があります. 実際 34455 MB 問題なし
 スワップ領域の確認中: 150 MBを超えている必要があります. 実際 13988 MB 問題なし
 モニターの確認中: 少なくとも 256 色表示するよう設定されている必要があります. 実際 65536 問題なし
 Oracle Universal Installer の起動を準備中 /tmp/OraInstall2012-07-27_07-51-36AM. お待ち
 ください...

2) Oracle Universal Installer(OUI) 画面が起動します。

「My Oracle Supportの詳細」の設定内容は、アップグレード終了後 Cloud Control 12cコンソール画面から設定することとし、今回はスキップすることにします。

- 「**電子メール**」:空白のまま
- ・ 「セキュリティ・アップデートを MetaLink 経由で受け取る」: チェックを外す

Supportの詳細	ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12ct
 ● My Oracle Supportの詳細 ● ソフトウェアの更新 ● ハンストールのトーー ● ハンストールのトーー 	ままりますの問題について通知を受ける電子メール・アドレスを指定し、製品をインストールしてコンクオ しっしょう・マネージャを開始してください。詳細を表示。 モデール(N) レータール(N) ・クーク・アップデートをMetaLink経由で受け取る(M) レーター・パンゴー・デリン
	メッセージ <u>(M)</u> :
ヘルブ(H) イン:	ストールされた製品(P) <厚ち(B) 次へ(N) > パラストーの(D) 取消

「次へ」をクリックすると警告画面が表示されますが、「はい」をクリックして続行します。



3) 「ソフトウェアの更新」も今回はスキップを選択し、「次へ」をクリックします。

リフトウェアの更新	ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12
<u>My Oracle Supportの詳細</u> リフトウェアの更新 <u>前提条件のチェック</u> インストール・タイプ 構成の評価 環題 インストールの違いたい	 ● キップ広) ● 更新の検索(前提条件、クリティカル・バッチ、個別バッチなど)(5) ● ローカル・ディレクト ビ(い) ● My Oracle Support (インターキット電話が起変)(0) ユーザー名(い) リ(スワード(小)) ● 東系の検索(点)
	メッセージ <u>(M)</u> :

4) 「前提条件のチェック」で OUI は、製品をインストール(アップグレード)および構成するために必要な最小限の要件を満たしているか検証を行います。

ここでエラーが検出されたら次のステップへ進む前に修正を行ってください。修正後、チェックを再実行し、 すべての項目の検証が「成功」となっていることを確認したら「**次へ**」をクリックします。

]提条件のチェック	ORACLE Enter	orise Mana	ager Cloud Control	
Mv.Oracle Supportの詳細 <u>ソフトウェアの更新</u>	前提条件チェックは、選択した製品をインストールおよび構成するための最 かを検証します	小要件を環境	が満たしているかど	
前提条件のチェック	再実行(<u>R</u>) 無視(<u>C</u>)			
(インストール・タイプ	前提条件名	1	ステータス	
○ 構成の計描 確認 インストールの進行状況 終了	Oracleソフトウェアが現行のOS上で認証されているかどうかを確認中 必要なバッケージがシステムにインストールされているかどうかを確認中 必要なCLIBCがシステムにインストールされているかどうかを確認中 TEMPに十分なディスク領域があるかどうかを確認中 インベントリの場所に十分なディスク領域があるかどうかを確認中 ソフトウェアに現在のOSと互換性があるかどうかを確認中 タイムゾーンの設定を確認中 十分な物理メモリーがあるかどうかを確認中 十分なスワップ領域があるかどうかを確認中 必要なulimit値を確認中 ホスト名を確認中		成功 成功 成功 成功 成功 成功 成功 成功 成功	
	 天際の稲来: cdcjp74vm5.cn.oracle.com チェックが完了しました。このチェックの全体的な結果: 問題なし LD_ASSUME_KERNEL環境変数を確認中 Description: LD_ASSUME_KERNELの確認 予期した結果: LD_ASSUME_KERNEL環境変数が2.4.19に設定されていませ 実際の結果: 変数が設定されていません チェックが完了しました。このチェックの全体的な結果: 問題なし 	h		

5) 「インストール・タイプ」画面では、「既存の Oracle Enterprise Manager システムのアップグレード」の「1 システムのアップグレード」を選択し、「インストールされた Oracle ホーム」にこれからアップグレードを行う OMS(管理サーバー)が正しく選択されていることを確認します。

また、「ミドルウェア・ホームの場所」に Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c をインストールする 際のミドルウェア・ホームを指定します。

(アップグレード後は、ここで指定した<Middleware_HOME>の下に作成される oms ディレクトリが OMS_HOME となります。(<OMS_HOME> = <Middleware_HOME>/oms)

(ンストール・タイプ		ger Cloud Control 12
My Draals Support 11 ・フトッキャルテック <u>前提条件のチェック</u> インストール・タイプ <u>データベース接続の詳細</u> ・ フラクジョンの合約	 Enterprise Managerシステムの新規作成(C) ● 問号(S) ● 計価値 ● 日存のEnterprise Managerシステムのアップグレード(U) ● 2システムのアップグレード(T) ● 1システムのアップグレード(O) 	
	Select インストールされたOracleホーム ③ /home/oracle/OracleHomes 10.	ベージョン 2.0.5.0
	ミドルウェア・ホームの場所(L) /u01/app/Middleware	参照(<u>W</u>)
	メッセージ <u>(M</u>):	
AU-7(H)	7.トールさわた創品(の) / (つん(N)) / (つん(N))	10.18

「**次へ**」をクリックします。

6) 「**データベース接続の詳細**」画面では、接続記述子の内容が正しいことを確認し、"SYS"および"SYSMAN" のパスワードを入力し、「次へ」をクリックします。

ータベース接続の詳細		9	ORACLE	Enterprise Manager	Cloud Control 1
My Chacle Supportの計画 シゴトウェアの更新	接続記述子	(DESCRIPTION=(AD vm5.cn.oracle.com) n.oracle.com)))	DRESS_LIST=(ADDR (PORT=1521))(CO	ESS=(PROTOCOL=TCP)(NNECT_DATA=(SERVICE_	HOST⇒cdcjp74 NAME≠emrep.c
前意来作のチェック	<u>S</u> YSパスワード(S)	•••••			
<u>インストール・タイプ</u>	S <u>Y</u> SMANバスワード(Y)	•••••			
データベース接続の詳細	_				
フラクインの選択					
Webbogic Serververwervervite					
W.T					
	メッセージ <u>(M</u>):				
7) 「**プラグインの選択**」画面では、もしこのアップグレード作業の中で追加インストールしたいプラグインがあれ ばチェックを付け選択します。

ヒント

グレー・アウトしているプラグインは必須プラグインなので選択を外すことはできません。

My Create stopport and	ブラグ- のライ ンを選	インには、特定タイブのターゲット領域またはソリューション フサイクルはEnterprise Managerのコア・ブラットフォームた 尺してください。	領域に合せた管理機能が備わっており、 から独立しています。構成する管理ブラ
Control - 1 1	選択	名前	バージョン
123 -1 112	1	Oracle Database	12.1.0.2.0
データイーフロジェクジャー	1	Oracle Exadata	12.1.0.2.0
データハース接続の評価	4	Oracle Fusion Middleware	12.1.0.2.0
ブラグインの選択	1	Oracle MOS (My Oracle Support)	12.1.0.2.0
		EMC CLARIION Array	12.1.0.2.0
WebLodic Server相应。		EMC Celerra Storage	12.1.0.2.0
(1)x		EMC Symmetrix Array	12.1.0.2.0
	E	Exalogic Elastic Cloud Infrastructure	12.1.0.1.0
C. C. C. C. C.	E	IBM DB2 Database	12.1.0.2.0
	E	Oracle Audit Vault	12.1.0.2.0
		Oracle Chargeback and Capacity Planning	12.1.0.2.0
Test of the second		Oracle Cloud Application	12.1.0.2.0
		Oracle Exadata Healthchecks	12.1.0.2.0
	E	Oracle Fusion Applications	12.1.0.2.0
	E	Oracle Siebel	12.1.0.2.0
	E	Oracle Virtualization	12.1.0.2.0
		Sybase ASE Database	12.1.0.2.0
	メッセージ	<u>(M</u>):	

注)アップグレード・コンソール「ソフトウェアの管理」フェーズで、必要なすべてのプラグイン・ファイルをダウンロードし、検証も成功したにも関わらず「プラグインの選択」画面の前に以下のようなエラーが表示された場合は、 ー旦 OUIを終了して、次のように"-pluginLocation"オプションを付けて OUI を起動してここまでのステップをもう ー度やり直してください。





 WebLogic Server 構成の詳細」画面では、"WebLogic"および"ノード・マネージャ"のパスワードを入力し、 必要があれば"OMS インスタンス・ベースの場所"(デフォルトは<Middleware_HOME>/gc_inst)を修正し て「次へ」をクリックします。

WebLogic Server構成の詳紙	8	ORACLE	Enterprise Manager Cloud Control 12
Y My Oracle Support 000700 Y ファトウェアの更い Y 前日子 1-07 ± 1 7 X 1 2 3 1 - 1 - 1 - 7	WebLogicドメイン名 WebLogicユーザー名 <u>(</u> U) Web <u>L</u> ogicバスワード(L) バスワードの確認 <u>(</u> C)	GCDomain weblogic	
 <u>ブラグインの選択</u> ○ WebLogic Server構成の詳細 <u>表領域の場所</u> 	ノード・マネージャ・ユーザー名 - ノード・マネージャのパスワー <u>ド</u> (D) - パスワードの確認 <u>(</u> O)	nodemanager	
	OMSインスタンス・ベースの場所(I)	/u01/app/Middleware/g	c <u>_inst</u> 参照(<u>5</u>)
	メッセージ <u>(M</u>):		

9) (Grid Control 10g からのアップグレードのみ)「表領域の場所」画面では、JVM 診断データ表領域のデータ ファイルを配置する場所を変更する必要がある場合のみ修正を行います。

「**次へ**」をクリックします。

長領域の場所	ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12
My Oracle SUpport Wall リコトウェアの更か 町日子からままた コンストール・タイゴ データベース通知の計細 フラクインの合約 WebLogic Server構成の詳細 麦質域の場所 ボート構成の詳細 ほぼ インストールの目的	アップグレード中、JVM関連の監視データを巻納するための追加のJVM診断データ表領域が作成されました。データ ファイルの場所を指定してください。 JVM診断データ表領域(V) pp/oracle/oradata/EMREP/mgmt_ad4j.dbf
	メッセージ <u>(M</u>):

10) (Grid Control 10g からのアップグレードのみ)「ポート構成の詳細」画面では、Cloud Control 12c のいくつ かのコンポーネントについて使用するポート番号の変更を行うことができます。

「**次へ**」をクリックします。

『ート構成の詳細	C	DRACLE Enterprise Manage	r Cloud Contro
$\int_{-\infty}^{\infty} \frac{d^2 r}{dr} \frac{dr}{dr} = \frac{dr}{dr} \frac{dr}{dr} \frac{dr}{dr} = \frac{dr}{dr} \frac{dr}{$	Enterprise Managerシステムの構成には、システ ンソールへのアクセスを可能にするための、いく に割り当てられるボートと推奨されるボート範囲 能な1つ目のボートが遅択されています。 staticports.	テム・コンボーネント間の内部通信を容易にし つかのボートの割当てが必要です。次の表に を示します。デフォルトでは、指定されたボ iniファイルのインボート(l)	ハ、ブラウザから 、各コンボーネン ート範囲内で使用
$t \neq -a = -30000000$	コンボーネント名	推奨されるポート範囲	ボート
WEBLOON FENERAL 表価域の場所 ボート構成の詳細 確認	Node Manager Http SSL Port Managed Server Http Port Admin Server Http SSL Port Managed Server Http SSL Port	7401-7500 7201-7300 7101-7200 7301-7400	7403 7202 7101 7301
	メッセージ <u>(M</u>):		

11)「確認」画面で、ここまでのステップで行った設定内容を確認します。

もし何らかの修正を行う場合は、「**戻る**」をクリックして必要なステップまで戻ってやり直します。 すべての内容が正しいことを確認できたら「インストール」をクリックします。

確認	ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 1
My Oracle Supportの詳細 ソフトウェアの更新 前提条件のチェック インストール・タイプ データベース接続の詳細 フラグインの選択 WebLogic Server構成の詳細 表領域の場所 本一ト構成の詳細 確認	 指定した情報を確認し、「インストール」をクリックして、インストール・プロセスを開始します。 Enterprise Manager 12cへのアップグレード(U) ソース: /mnt/emdb/em_team/em/product/linux64/GC12/12.1.0.1_BundlePatch_BP1/emgc/s ディスク領域 使用可能: 32.86CB 必須: 7CB OMSホーム: /u01/app/Middleware/wfserver_10.3 OMSホーム: /u01/app/Middleware/oms エージェント・ホーム: /u01/app/Middleware/agent/core/12.1.0.1.0 データベース情報 複続文字列: (DESCRIPTION=(ADDRESS_LIST=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)(HOST=cdcjp74) WebLogicサーバーの情報 ドメイン名: GCDomain
	レード・マネージャ・ユーザー名: nodemanager WebLogicユーザー名: weblogic ローボート

12) アップグレード(インストール)の進行状況は、プログレス・バーおよびステップ毎の詳細ステータスで表示されます。



13) 「構成スクリプトの実行」のポップアップ画面が表示されたら、新たにターミナル画面を開き、root ユーザー で次のスクリプトを実行します。

<OMS HOME>/allroot.sh

例)

[root@cdcjp74vm5 ~]# /u01/app/Middleware/oms/allroot.sh

実行後は「構成スクリプトの実行」画面に戻って「OK」をクリックします。

	構成スクリプトの実行	
構成スクリプトは、rootユー	ザーとして実行する必要があります	
されるスクリプト		
番号	スクリプトの場所	
1 /u01/app/Midd	leware/oms/allroot.sh	
スクリプトを実行するには、	次のようにします	
新規ターミナル・ウィンドウ in cot としてログインします	と開きます	
レロションします		
このウィンドウに戻り、「OK	」をクリックして続行します	
and the second of		
	QK	

14)「閉じる」をクリックしてアップグレードを終了します。

终了	ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12
	この情報は次の場所でも入手できます: /u01/app/Middleware/oms/install/setupinfo.txt Enterprise Managerのインストールに関する情報は、次を参照してください: 次のURLを使用してアクセスします: 1. Enterprise Manager Cloud ControlのURL: https://cdcjp74vm5.cn.oracle.com:4444/em 2. 管理サーバーのURL: https://cdcjp74vm5.cn.oracle.com:7101/console 追加のOMSインストールの際に次の情報を指定する必要があります: 1. 管理サーバーのホスト名: cdcjp74vm5.cn.oracle.com 2. 管理サーバー・ボート: 7101
	注意: 管理リポジトリの機密データを暗号化する暗号化鍵が生成されました。このキーがなくなると、リポジトリ内 の暗号化されたデータがすべて使用不可になります。次のコマンドを実行して、emkeyを含む管理サービス構成 のパックアップを作成し、別のシステムに保存してください: emctl exportconfig oms - dir <backup location=""></backup>

ヒント

アップグレード完了後、Cloud Control 12c コンソール画面へアクセスする際の URL は、この画面、または setupinfo.txt ファイルから確認することができます。 画面の例の場合) https://cdcjp74vm5.cn.oracle.com:4444/em

4.4. アップグレード後のタスクの実行

4.4.1. 一般的なアップグレード後のタスク

1) OCM スケジューラーの停止 アップグレード前の ORACLE_HOME で構成されていた OCM スケジューラーを停止します。

\$ export ORACLE_HOME=<10g または 11g の OMS_HOME>
(11.1.0.1 の場合はさらに)
\$ export ORACLE CONFIG HOME=<gc inst ディレクトリ>

\$ \$ORACLE_HOME/ocr/bin/emCCR stop

例)

[oracle@cdcjp74vm5 oms10g]\$ export ORACLE HOME=/home/oracle/OracleHomes/oms10g [oracle@cdcjp74vm5 oms10g]\$ \$ORACLE HOME/ocr/bin/emCCR stop

2) 使われなくなったターゲットの削除

Cloud Control 12c では、Grid Control で使用していたいくつかのターゲットが削除、または移行されています。

以前のリリースでこれらのターゲットに対して通知ルール、メトリックしきい値、標準コンプライアンスやジョブ などを設定していた場合は、新たな Oracle WebLogic サーバーターゲットへ設定を行った後、以下の使わ れなくなった古いターゲットをマニュアルで削除します。

- EM Website
- EM Website System
- Grid Control 10g OMS ORACLE_HOME を構成する Oracle Application Server ターゲット
 - Oracle Application Server
 - OC4J
 - Oracle HTTP Server
 - Web Cache
- Grid Control 11g OMS ORACLE_HOME を構成する Farm ターゲット secFarm_GCDomain
 - Oracle Fusion Middleware Farm
 - Oracle Weblogic Domain
 - Application Deployment
 - Metadata Repository
- 3) SOA ターゲットのメトリック収集エラーの解決

アップグレード前のリリースで SOA ターゲットの監視を行っていた場合、Top SQL クエリに対するメトリック 収集エラーが発生することがあります。

この場合は、SOA ターゲットの監視構成ページからデータベース資格証明を付加します。

その他の一般的なアップグレード後のタスクについては、「<u>Oracle Enterprise Manager Cloud Control</u> <u>Upgrade Guide</u>」 - "<u>25 Performing General Postupgrade Tasks</u>"を参照してください。

4.4.2. 遅延データ移行の実行

アップグレード・コンソールのアップグレード前のタスク、「Configure Postupgrade Tasks」で「Disable automatic DDMP jobs」を有効にしていた場合は、マニュアルでデータ移行を実行します。

1) 「設定」メニューから「アップグレード後のタスク」を選択します。

設定(1) マ ヘルブ(日) - ター ターゲットの追加 エージェント	SYSMAN +	ログアウト (
アップグレード後のタスク	7/27 10	:16:38 CST
拡張性 プロキシ設定	*	X
セキュリティ インシデント 通知	*	
プロビジョニングとパッチ適用 My Oracle Support ミドルウェア診断	:	Hosts 1
管理サービスとリポジトリ コマンドライン・インタフェース Management Pack		

遅延データ移行を実行するコンポーネントを選択して「開始」をクリックします。
 (複数コンポーネントの選択可)

すべてのデータ移行が正常終了したことを確認します。

ORACLE Enterprise Manager Claud Control	ł 12c		設定(1) + へあ7(2)
🐇 Entergrise(Ε) = 🍯 9-931(Ω) = 🏫 880(2λ Ω(Ξ) = 😋	用冠(0) +		9一行小名印教書 -
アップグレード後のタスク			パーラ・リフレ
建展データ 称行			
REF-SERIET TO Provide Manual & Studio 1997	12:開発ダー5本) >- Fairman Margar 2キース(純粋するアップグ)	あびアクラィドティです。 スタータス・アイブンをクルックする	い、ウェウの詳細が表示されます。
See and the Dramman and an antice and	MANAGES SCORE PROVIDENT AND	the start of the	and the statement and the state and
É-+ ₩### (105)	WARD ACCOUNTED TO THE T		en a recommendaria
	27-42	1014	終7
ロー・ 登場時時 105-1 75-1 75-1	27-42	10151 2012/07/27/229/47	(終了 2012年727 220-54
L-+ Tot-state Tot-state	37-42 9	10000 001210707220147 001207072702220	148 7 2012/07/27 2:20:54
ビー・ 一・ 一・ 一・ 一・ 一・ 一・ 一・ 一・ 一・ 一・ 一・	27-42 9 9	10155 2012/07/07/220/47 2012/07/07/2220/47 2012/07/07/2220 2012/07/07/2220/00	149 77 2012 07 27 2 20:54
ビュー・ 副連結論論 10ポーネンを名 70-ト Coteneors 三嶋成 メトリック	27-92 9 9	10056 2012/07/27/229/47 2012/07/27/2220 2012/07/27/2220 2012/07/27/22200	線7 2012年77-220-54
ビュー・ 通生になったいた名 アラート この時間に 日本のた名 アラート この時間に 日本のた名 「日本のた名 「日本のた名 「日本のた名 「日本のた名 「日本のた名 「日本のた名 「日本のた名 「日本のたる 「日本のたる 「日本ののたる 「日本ののたる 「日本ののたる 「日本ののたる 「日本ののたる 「日本ののたる 「日本ののたる 「日本ののたる 「日本ののたる 「日本ののたる 「日本ののたる 「日本ののたる 「日本ののたる 「日本のの 「日本のの 「日本のの 「日本のの 「日本のの 「日本のの 「 「日本のの 「日本のの 「日本のの 「	37-42 9 9 9	VETAL 2012/07/07/22/9/47 2012/07/07/22/20 2012/07/07/22/20 2012/07/07/22/20	終了 2012年727222054

4.4.3. インシデント・ルールの更新

旧リリースの Grid Control 10g/11g では、「OMS とリポジトリ」が、環境内すべての OMS に対して定義される共通のターゲット・タイプでした。

また、複数の OMS を構成している場合、異なる OMS に対して収集されたメトリックは、この共通のターゲット・タイプ内に表示されていました。

ー方 Cloud Control 12c では、ターゲット・タイプ「OMS とリポジトリ」に加えて、環境内の各 OMS を表す新しいタ ーゲット・タイプ、「Oracle Management Service」が導入されています。

これにより、例えば環境内に2つの OMS が存在する場合、ターゲット・タイプ「OMS とリポジトリ」が1つ、そして ターゲット・タイプ「Oracle Management Service」のインスタンスが2つ(各 OMS に対して1つ)表示されます。

ターゲット・タイプ「OMS とリポジトリ」では、環境内のすべての OMS に共通するメトリックが取得されるのに対し、 ターゲット・タイプ「Oracle Management Service」では、各 OMS に固有のメトリックが取得されます。

このようにメトリックに対する変更によりインシデント・ルールを手動で調整する必要がある場合、それを行います。

詳細については、

「<u>Oracle Enterprise Manager Cloud Control Upgrade Guide</u>」 - "<u>31 Updating Incident Rules</u>" を参照してください。

「設定」メニュー →「**インシデント」**→「**インシデント・ルール**」

ORACLE Enterprise Man	ager Cloud Control 12:				_		1.1114	#1. #970F C
🚓 brinnelli . 🍙 s- 9560 . 🖌	86C140. 🙆 880				3	0.830		
インシデント・ルール・すべてのエンタープライズ・ルール					アップクレード後のタズク	1	38 22:52:42 CST C	
メーロ・シナセ、ターワナ、ショア3109: <キ、モンション13.5.6月間に対して取り 用します。	リプレート度とのオプジングで非確定サイン面積4月3月4日、もの35.25m2のです。ルールに対対すのイベント、パ ルールの通信、インジアングの市場、インジアングの原題、デナルの各級などのアグジンが実現れてきます。ルール	10.70+また2月 ド小市和17月-	AUNT	C集行される総裁アク オルル県序で評価も。	ションのセット) とび後期されま	重新は プロキジ設定		1日天上は美麗神中わたう 5回間点1775年25番
79942 + Ex-+ 1911-4-1	1400ML 0085 JER 1000 00 8-01000001 MR			言語は		**==177+	-1	
21	19.00	1 12 9AT	2470	10.0.0	1000	モノンテンチ		40/0-9104-8-8
In Adaptitud Problems	Epiters successed within the rate for mentioning Agents who may have produced apleading rate to the Har-	• 1 9		S.VERSARI	#11	3812		1 4 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1
De Agentis Mires will aller	System-serveraled additionable rule for completing elevate one bare combine with the Management Review -	4		ETRANAL.	1211	プロビジョニングとバッチ適同	.1	496.48
De Application Station Availability and Certin	a fighter-provided addicator rule to monitoria application far-serif contability policetical restric claimant	4		B VENEMIT	ini -	My Draste Sugarst	+	100-4
> Builded asserts	Spiters-serviced a billion was for Simpled service	4		SYREMAN	##11	2011年ウルア開催		1816
> Detabase maskedity and Colors States	I gitere-serveraled authoriton rate for superiorsa Constance," analability and uritize the box statutes	*		3.7834.991	124.1	***	-	51.91
Do HITP Samer Analishing and Defined On	at Apphate generalise sublication sub the transformer HTTP Service' and statly and include eaches algebrase.		1	2753841	#11	77.456.0000-7	. 1	NYANA.
De Hart Available (and Detailed That's a	Replacementarial a collection rule for economic painty washingly and collection dataset	1 .	1	17784449	12 h t	Manual Bad	.1	132.8
5. Lotever Available	Surface provided with both where such the mentioning debiases (primers' possibility and provide material statement	4.	1	81838AV	- 121.0	ine and the provide second	<u>.</u>	18.91
De Monorcheurs & servers	Septem-spreated out fication rate for exceptions of asserts	3	0	SYSSEMU	the state			(think
2. DO&J Analability and Deternal Bristop	System-senarated additioners rule for monitories (OC4)s' availability and critical models attraces	10	1	STREEM	144			1218
in DMS service schelleskow arrors	System moverals of a official on rule for monitoring CMS service includents arters	11 1		ITYPENNY:	1211			1612
NUMBER OF TAXABLE PARTY.	A 1997 MARKET AND A REPORT OF A REPORT OF A 1997 AND A	144	á.	a Canadian	1011		_	1413

5.「2 システム・アプローチ」によるアップグレード

5.1. アップグレード環境

本章で使用するアップグレード環境は以下の通りです。

<u>アップグレード前(既存) Oracle Enterprise Manager 10g Grid Control 環境</u>

ホスト

ホスト名	techqajp01.jp.oracle.com
オペレーティング・システム	Oracle Linux 5 Update 7 for x86_64(64bit)
Oracle ソフトウェア所有者ユーザー (Oracle Enterprise Manager/リポジトリDB)	oracle(グループ: oinstall、dba、oper)

Oracle Enterprise Manager

管理サーバー(OMS)	Oracle Enterprise Manager Grid Control 10.2.0.5
OMS_HOME	/scratch/OracleHomes/oms10g
管理エージェント	Oracle Enterprise Manager Grid Control 10.2.0.5
AGENT_HOME	/scratch/OracleHomes/agent10g

リポジトリ・データベース

データベース・リリース	Oracle Database 10.2.0.5
SID	emrep
ORACLE_HOME	/scratch/oracle/OracleHomes/db10g

techqajp01.jp.oracle.com



<u>アップグレード後 Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c 環境</u>

ホスト

ホスト名	techqajp02.jp.oracle.com
オペレーティング・システム	Oracle Linux 5 Update 7 for x86_64(64bit)
Oracle ソフトウェア所有者ユーザー (Oracle Enterprise Manager/リポジトリDB)	oracle(グループ: oinstall、dba、oper)

Oracle Enterprise Manager

管理サーバー(OMS)	Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12.1.0.1 (BP1)
OMS_HOME	/u01/app/Middleware/oms
管理エージェント	Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12.1.0.1 (BP1)
AGENT_HOME	/u01/app/agent12g/core/12.1.0.1.0

リポジトリ・データベース

データベース・リリース	Oracle Database 11.2.0.3
SID	em12rep
ORACLE_HOME	/u01/app/oracle/product/11.2.0/db_home1



techqajp02.jp.oracle.com

5.2. アップグレード・コンソールによる作業

5.2.1. アップグレード・タイプの選択

1) EMGC コンソールから「デプロイ」タブ →「Oracle Enterprise Manager 12c アップグレード・コンソール」 を選択し、アップグレード・コンソールを開きます。

GRACLE Enterprise Manager 10g		ホーム	ターゲット デブロイ フラート
一般 プロモジョニング			
デプロイ			
Oracleホーム用クリティカル・パッチ・アドパイザ パッチ・アドバイザ 0 (1) パッチ・アドバイザ 0 (1) パッチ・アドバイ Wy Cracle Support 影響を受けるOracleホーム 0	井橋稲が失敗している町能性があります。 のりフレッシュ・ジョナが優去78時間の間正	海に面白るれていません。	機要 Enterprise Managerは、ホストとそのオペレ 関サる詳細情報を保持します。「デフロイ・ されるので、個々のコンボーネントを選択し 「構成」ページからも利用できます。デフロイ ・詳細情報に関する検索を実行。
ジョブ <u>BefreichFromMvC</u> デブロイ・サマリー 表示 データベースのインストール	racleSupport		 ホストビアータベースの詳細情報時 My Oracle Supportでのパッチを視 データベース見たはOracleホームを) 構成の収集力セスを管理。 デフロイメント・プロシージャを使用し
データペースのインストール	ターザット	インストール 傷別パッチ通用	[
Oracle Database 10g 10.2.0.5.0	1	1002	
アップガレード Enterprise Mensger 120アップグレード・コンソール			
構成		構成のインホート	

2) 「アップグレード・タイプの選択」の中から「2システム」を選択します。

○RACLE Enterprise Manager 10g Grid Control 一般 プロビジョニング アップグレード・コンソール アップグレード・コンソールは重要なユーザー・イング 択し、既存のEnterprise Managerシステムをスム	マエースで、ここからEnterprise Manage -ズかつシームレスな方法でアップグレー	r 10g Grid Controlリリース5 (10.2.0.5.0)からEnterpris ドします。	ホーム)ターゲット) デプロイ se Manager 12c Cloud Controlリリース1 (12.1.0.
<u>エージェントのアップヴレード・ステータス</u> Ag インベン (エージェント <i>とター</i> ゲットのリ	成功 0 失敗 0 進行中 0 未開始 1 サポートされていません 0 ents with Valid Inventory 1 トリが無効のエージェント 0 ストのリフレッシュ	その他のリンク エージェントのアップグレード・ステータス ターゲットのアップグレード可能性ステータス 問題のあるエージェント 再構成が必要なエージェント Broken Targets	その他のリンク Enterprise M Enterprise M Agents Insta Enterprise M ゲット Enterprise M
アップグレード・タイプの選択 ・ドレステム ・シンステム ・ 異なる木ストでの1システム アップグレード前のステップ	 Øヒント 既存のEnterprise Man. Øヒント Enterprise Managerンク Øヒント 既存のEnterprise Mana 	agerシステムを停止し、同じホストでアップグレードしま テムを別のホストに新たにインストールする間、新し(agerシステムを停止し、別のホストでアップグレードし;	ます。 いシステムにスイッチオーバーするまで既存のEnte ます。

5.2.2. アップグレード前のステップ

アップグレード 前のステップ	
OMSとエージェントをアップグレードする前に、次の手順を実行します。	
フェーズ名	説明
概要	アップグレード・プロセスの概要を取得します。
<u>新規Enterprise Managerシステムのホストとポートの識別</u>	新規Enterprise Managerシステムのインストール先のボートとホストを入力します。
<u>ソフトウェアの管理</u>	Enterprise Managerシステムのアップグレードに必要なソフトウェアを管理します。

- 1) 「概要」から2システム・アプローチによるアップグレード作業の流れを確認することができます。
- 2) 「**新規 Oracle Enterprise Manager システムのホストとポートの識別**」では、アップグレード先(Cloud Control 12c のインストールを行う)OMS ホストおよび使用ポートの情報を入力します。

ORA Grid Co	CLE ⁻ Enterprise Manag	er 10 <i>g</i>	ホーム ターゲット デプロイ
一般	プロビジョニング		
アップグレー	<u>- K·コンソール</u> >		
新規E	nterprise Managerシス [:]	テムのホストとポートの識別	
		Oracle Management Service 12cJリース1 (12.1.0.1.0)にサーバー・ロード・バ ランサ(SLB)を構成する場合にクリックします	
	OMSホスト	techqajp02.jp.oracle.com Oracle Management Service 12dリリース1 (12.1.0.1.0)のインストール先として予定し ているホストの完全修飾名を入力します。	
	OMSセキュア・ポート	4900 Enterprise Managerシステム12dリリース1(12.1.0.1.0)に割り当てる予定のEnterprise ManagerアップロードのHTTP SSLボートを指定します。	
	OMS非セキュア・ポート	4889 Enterprise Managerシステム12dリース1 (12.1.0.1.0)に割り当てる予定のEnterprise ManagerアップロードのHTTPボートを指定します。	

またデフォルトの設定では、アップグレード直後に Cloud Control 12c はメトリック、構成情報などといった時 系列データをアップグレード前の Grid Control 10g/11g リリース形式から Cloud Control 12c に対応する形 式へ変換するジョブ (DDMP ジョブ)を実行します。

変換対象となるデータ量が多くなると、これらのジョブによる管理リポジトリの負荷が高くなりますが、特に 1 システム・アプローチによるアップグレードでは、同様にアップグレード直後からすべてのエージェントによる データのアップロードも実行されるため、リソース不足を引き起こす可能性があります。

「Configure Post Tasks」から「Disable automatic DDMP jobs」を有効にすると、データ変換ジョブ (DDMP ジョブ)をアップグレード後にマニュアルで実行することができるので、この問題を回避することがで きます。

ー方、2システム・アプローチによるアップグレードでは、デフォルトではアップグレード後に管理エージェントの切り替えの構成を実施するので1システム・アプローチと比べ問題となる可能性は低くなりますが、やはり DDMP ジョブ実行のタイミングをマニュアルでコントロールしたい場合はこのオプションを有効にしてください。

ヒント

2 システム・アプローチによるアップグレードで「Disable automatic DDMP jobs」オプションを有効にした 場合は、併せて「Disable automatic ADMP jobs」オプションも有効となります。



Cloud Control 12c OMS ホスト、ポート情報が正しく入力され、DDMP、ADMP ジョブをアップグレード後の タスクとして実行する場合は、オプションの選択が完了していることを確認したら「保存」をクリックします。

 「ソフトウェアの管理」からアップグレードに必要となるエージェント、プラグイン・ソフトウェアを確認します。 画面にリストされたアップグレードに必要なソフトウェアを、以下の URL からダウンロードし、OMS ホストの 適当なディレクトリに配置します。

http://www.oracle.com/technetwork/oem/grid-control/downloads/oem-upgrade-console-502238.html



注) ダウンロードした ZIP ファイルは解凍しないでください。

画面の例の場合であれば、次のソフトウェア・ファイルが必要となります。

12.1.0.1.0_AgentCore_226.zip

- 12.1.0.1.0_oracle.sysman.beacon_2000_0.opar
- 12.1.0.1.0_oracle.sysman.csa_2000_0.opar
- 12.1.0.1.0_oracle.sysman.emrep_2000_20120427.opar
- 12.1.0.1.0_oracle.sysman.oh_2000_20120211.opar

12.1.0.2.0_oracle.sysman.db_2000_20120704.opar

12.1.0.2.0_oracle.sysman.emas_2000_20120704.opar

4) 3)で用意したソフトウェア・ファイルを配置したディレクトリを「ソフトウェアの場所」に指定して、「検証」をクリックします。

検証のジョブが完了し、「エージェント」「ターゲット」のアップグレード可能性がすべてアップグレード可能(緑 色の円グラフ)となっていることを確認します。

ORACLE Enterprise Manager 10g Grid Centrol	ホーム ターゲット デッロイ アラート コンプライアン
- 一般 小 プログラムニング	
リフトウェアの管理	
①情報:	
 エージェンド・ソフトウェアのソフトウェア情報を正常に使証し、希望しました「Annerorsche'm_appr12/12] The Management Agent astimate 12.1.0.1.0_AgentCare_226.zip too have provided requires parties '' in ・ プラライン・ソフトウェアを正常に推出し、ディレクトリに保存しました Annerorsche im_appr12.cylingin_bin 	1.1.01.0_AgontCore_228.org be applied on the 12c upgraded OMS. . The more details check log at fromton "domenterade re_upgr12c/plugin_bin"
氏確認	
Refrict R. D a FRefresh AndValidate Targets 2012 05 06 18 17 46 445	
エージェントのアップグレード可能性	キーデットのアップグレード可能性
100% 二 大阪レズい&フラダイレズアップグレード可能(力)	100N - 5.36U(L)-5.757-(
ソフトウェアの場所の指定	
必須ブラットフォーム用のエージェント・ソフトウェアと関連フラダイン・ソフトウェアが存在する場所を入力し、検証します。 = ソフトウェアの場所 //home/oracle/sw_upgr12c	注意: ソフトウェアをステークング場所にコピーする際、次のルー ・ コア・エージェント・ソフトウェアとフラグイン・ソフト 小バルにコピーにます。 フロークロービングの中に、2 米 コンローム・アキャン
感ビント 推動ONSS環境の場合は、すべてのONISで共和される場所を入力します。	品本は出しないでください。例121000-Agem 121030 gate sympa
and a standard Mental data and independent solution of a life bit of a standard and and a standard in the Wilson and	

検証ジョブ、正常終了後の画面

ORACLE Enterprise Manager 10g Grid Control 一般 ↓ プロビジョニング	ホーム ターゲット デプロイ ア
<u> アップグレード・コンソール</u> >	
ソフトウェアの管理	
エージェントのアップグレード可能性	ターゲットのアップグレード可能性
100% ■ アップグレード可能 (1)	100%
ソフトウェアの場所の指定	
	注意
	ソフトウェアをステージング
必須ブラットフォーム用のエージェント・ソフトウェアと関連ブラグイン・ソフトウェアが存在する場所を入力し、検証します。	 コア・エージェント・
*ソフトウェアの場所 /home/oracle/sw upgr12c	検証 レベルにコピーしま
	 DVDまたはMOSが

5.3. OMS とリポジトリのアップグレード処理

5.3.1. 前提条件の確認

- Oracle Enterprise Manager Cloud Control Basic Installation Guide を参照し、Cloud Control 12c OMS (管理サービス)、および管理リポジトリが稼働する環境が、、ハードウェア、ソフトウェア等の要件を満たして いることを確認します。 また、必要に応じてパッケージ、カーネル・パラメーター、ライブラリ要件に合わせて調整を行います。
- 2) 既存の Grid Control 10g/11g システムで、実行中、またはスケジュールされているデプロイメント・プロシー ジャがあればすべて停止します。
- 3) OMS から管理リポジトリへ emkey をコピーします。

(10.2.0.5の場合)
\$ <OMS HOME>/bin/emct 1 config emley ket y -copy to repos

(11.1.0.1の場合)

\$ <OMS_HOME>/bin/emct l config emley ket y -copy_to_repos from file -emkry_file <OMS_HOME>/sysman/config/emkey.ora

例)

[oracle@techqajp01 bin]\$ /scratch/OracleHomes/oms10g/bin/emct 1 config emley ket y
-copy to repos
Copyright (c) 1996, 2009 Oracle Corporation. All rights reserved.
Please enter repository password:

The Em Key is already present in the Management Repository.

5.3.2. リポジトリ・データベースのコピーの作成とアップグレード

1) アップグレード・コンソール「OMS とリポジトリのアップグレード処理」の各フェーズを参照し、各フェーズを実行していきます。

OMSとリポジトリのアップグレード 処理		
OMSとリポジトリをアップグレードするには、次の手順を実行します。OMSとリポジトリをアップグレードする前に、オプションでエージェントをデプロイおよび構成するよう選択できます 成Jの手順を実行します。		
フェーズ名	説明	
<u>リポジトリのバックアップ</u>	管理リポジトリのバックアップ	
<u>リボジトリ・バックアップ詳細の指定</u>	管理リポジトリをバックアップしたときの情報を指定します。	
OMSとリポジトリの手動アップグレード	既存のOMSと管理リポジトリを手動でアップグレードします。	
アップグレード済リポジトリへのリンクの作成	以前のリリースの管理リポジトリとアップグレードされた管理リポジトリとの間にリンクを作成します	

【チュートリアル】Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c Bundle Patch 1(12.1.0.1.0) アップグレード・ガイド(Linux x86-64 版)

 「リポジトリのバックアップ」フェーズでは、まず既存の Grid Control 10g/11g システムでソフトウェア・ライブ ラリが構成されている場合は、それぞれのソフトウェア・ライブラリ構成ディレクトリごとにバックアップを取得 します。

例えばソフトウェア・ライブラリが"/programs/swlib"と"/software/swlib"の二つのディレクトリで構成されていた場合、それぞれの構成ディレクトリごとに swlib_1.zip、swlib_2.zip のように個別のバックアップ・アーカイブを取得します。

ヒント

取得したアーカイブファイルは、リモート・ホスト(アップグレード先 OMS ホスト)からアクセスできる場所へ配 置します。

次に既存の Grid Control 10g/11g 管理リポジトリ・データベースのバックアップを取得します。 取得したバックアップを利用して Cloud Control 12c の管理リポジトリ・データベースを配置するホスト上へ データベースのコピーを作成します。

注) この作業におけるデータベースのコピーの作成には、Grid Control 10g/11g コンソールからの DB クロ ーニング機能は使用できません。

注) DBCA を使用してバックアップ、コピーの作成を行った場合は、Cloud Control 12c のインストールを行う前にすべてのユーザーアカウントのロックを解除しておきます。



既存の Grid Control 10g/11g 管理リポジトリから emkey を削除します。

\$ <OMS_HOME>/bin/emctl config emkey -remove_from_repos

例)

[oracle@techqajp01 bin]\$ /scratch/OracleHomes/oms10g/bin/emctl config emkey -remove from repos Oracle Enterprise Manager 10g Release 5 Grid Control Copyright (c) 1996, 2009 Oracle Corporation. All rights reserved. Please enter repository password: ">enter password>

The Em Key has been removed from the Management Repository. Make a backup copy of OH/sysman/config/emkey.ora file and store it on another machine. WARNING: Encrypted data in Oracle Enterprise Manager will become unusable if the emkey.ora file is lost or corrupted. 4) 「リポジトリ・バックアップ詳細の指定」フェーズを選択し、バックアップを取得した日時を入力します。

ORACLE Enterprise Manager 10g	ホーム ターゲット	デプロイ
<u> → 版 2009年20</u> <u>アップブレード・コンソール</u> > リポジトリ・バックアップ詳細の指定		
バックアップ日付 2012/08/07)		

5) Oracle Database Documentation (参考:<u>Oracle Database 11gR2ドキュメンテーション(日本語版)</u>)を参照し、ステップ 2)で作成した管理リポジトリ・データベースのコピーをアップグレードします。 (本資料の環境では Oracle Database 10.2.0.5 から 11.2.0.3 へのアップグレードを実施)

ヒント

既存の Grid Control 10g/11g で使用していた管理リポジトリ・データベースが、Cloud Control 12c でもサポートされているリリースの場合(例: Oracle Database 11.2.0.2 など)は、管理リポジトリ・データベースのアップグレードは必須ではありません。

5.3.3. OMS のアップグレード

リモート・ホスト(Oracle Enterprise Manager 12c OMS を配置するホスト)へ Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c をインストールし、前のステップでアップグレードを行った管理リポジトリ・データベースと接続します。

1) 「Oracle Enterprise Manager Cloud Control 12c Release 12.1.0.1 (Bundle Patch 1), 12.1.0.2 Plug-ins for Linux x86-64」のメディアを使用して Oracle Universal Installer (OUI)を起動します。

Oracle ソフトウェア所有者ユーザー(本資料では oracle)で、次のコマンドを実行します。

\$ <Software_Location>/runInstaller
 例)
 [oracle@techqajp01 Disk1]\$ /mnt/EM12cBP1/Disk1/runInstaller
 Oracle Universal Installerを起動中です...
 一時領域の確認中: 400 MBを超えている必要があります. 実際 34455 MB 問題なし
 スワップ領域の確認中: 150 MBを超えている必要があります. 実際 13988 MB 問題なし
 モニターの確認中: 少なくとも 256 色表示するよう設定されている必要があります. 実際 65536 問題なし
 Oracle Universal Installerの起動を準備中 /tmp/OraInstall2012-08-07_01-51-36AM. お待ち
 ください...

2) Oracle Universal Installer(OUI) 画面が起動します。

「My Oracle Supportの詳細」の設定内容は、アップグレード終了後 Cloud Control 12cコンソール画面から設定することとし、今回はスキップすることにします。

- 「**電子メール**」: 空白のまま
- ・ 「セキュリティ・アップデートを Metalink 経由で受け取る」: チェックを外す

Oracle Ente My Oracle Supportの詳細	
Wy Oracle Supportの詳細 <u>ソフトウェアの更新</u> ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	CRACEC Enterprise Manager Cloud Condor 20 Eta J ティの問題について通知を受ける電子メール・アドレスを指定し、製品をインストールして コンフィ エレーション・マネージャを開始してください、詳細を表示。 電子メール(M): MetaLink電子メール・アドレス/ユーザー名を使用すると便利です。
	メッセージ <u>(M)</u> :
ヘルブ(<u>H</u>) イン:	ストールされた製品(P) <厚ち(B) 次へ(N) > > スペール(h) 取消

「次へ」をクリックすると警告画面が表示されますが、「はい」をクリックして続行します。



3) 「ソフトウェアの更新」も今回はスキップを選択し、「次へ」をクリックします。

ソフトウェアの更新	ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12
 My Oracle Supportの詳細 ソフトウェアの更新 前提条件のチェック インストール・タイコ 構成の評価 実験 	 ・ アナリアズ(K) ・ 更新の検索(前提条件、クリティカル・パッチ、個別バッチなど)(5) ・ ローカル・ディレクトリ(山) ・ ディレクトリ(山) ・ ディレクトリ(山) ・ ア・レクトリ(山) ・ ローサー名(山) ・ バスワード(M) ・ バスワード(M) ・ バスワード(M) ・ バスワード(M) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
↓ 1>2 F−wø≥n≪k ↓ 1 1	₩新の検索[A]
	メッセージ <u>(M</u>):

4) 「前提条件のチェック」で OUI は、製品をインストール(アップグレード)および構成するために必要な最小限の要件を満たしているか検証を行います。

ここでエラーが検出されたら次のステップへ進む前に修正を行ってください。修正後、チェックを再実行し、 すべての項目が「成功」となっていることを確認したら「**次へ**」をクリックします。

前提条件のチェック	ORACLE Enterp	orise Manager Clou	ud Control 1
 My Oracle Supportの詳細 ソフトウェアの更新 前提条件のチェック 	前提条件チェックは、選択した製品をインストールおよび構成するための最 かを検証します 再実行(<u>R</u>) 無視(<u>C</u>)	小要件を環境が満たして	ているかどう
 インストール・タイプ 構成の詳細 確認 インストールの進行状況 終了 	前提条件名 Oracleソフトウェアが現行のOS上で認証されているかどうかを確認中 必要なバッケージがシステムにインストールされているかどうかを確認中 必要なCLIBCがシステムにインストールされているかどうか確認中 TEMPに十分なディスク領域があるかどうかを確認中 インベントリの場所に十分なディスク領域があるかどうかを確認中 ソフトウェアに現在のOSと互換性があるかどうかを確認中 タイムゾーンの設定を確認中 十分な物理メモリーがあるかどうかを確認中 十分なスワップ領域があるかどうかを確認中 必要なulimit値を確認中 ホスト名を確認中	ステータス 成功 成功 成功 成功 成功 成功 成功 成功 成功 成功 成功 成功 成功	<u>,</u>
	 ス際の結果: tecnqajpu2.jp.oracie.com チェックが完了しました。このチェックの全体的な結果: 問題なし LD_ASSUME_KERNEL環境変数を確認中 Description: LD_ASSUME_KERNELの確認 予期した結果: LD_ASSUME_KERNEL環境変数が2.4.19に設定されていませ、 実際の結果: 変数が設定されていません チェックが完了しました。このチェックの全体的な結果: 問題なし 	ĥ	

5) 「インストール・タイプ」画面では、「既存の Oracle Enterprise Manager システムのアップグレード」の「2 システムのアップグレード」を選択します。

また「**ミドルウェア・ホームの場所**」にOracle Enterprise Manager Cloud Control 12cをインストールする際のミドルウェア・ホームを指定します。

(インストール後は、ここで指定した<Middleware_HOME>の下に作成される oms ディレクトリが OMS_HOME となります。(<OMS_HOME> = <Middleware_HOME>/oms)

ンストール・タイプ	ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12
My Dracle Supportの詳細 ソフトウェアの更新 <u>前提条件のチェック</u> ・ インストール・タイブ データベース接続の詳細 ブラグインの遮沢 WebLogic Server構成の詳細 古いりボジト りの詳細 確認 インストールの進行状況 終了	 Chterprise Managerシステムの新規作成(C) (回 時長(2) (回 許神(A) ② 梵存のEnterprise Managerシステムのアップグレード(U) ③ 2システムのアップグレービ(T) ① 1システムのアップグレービ(D) ① 1システムのアップグレービ(D) (こではソフトウェア・ビットをインストールします。構成またはアップグレードは後で行えます) ミドルウェア・ホームの場所(L) /u01/app/Middleware
	メッセージ <u>(M)</u> :

「**次へ**」をクリックします。

6) 「**データベース接続の詳細**」画面では、Cloud Control 12c の管理リポジトリ・データベースの情報を入力、 「次へ」をクリックします。

ータベース接続の詳細		ORACLE	Enterprise Manager Cloud Control
My Dracle Support 0,711	データベース・ホスト <u>名(</u> 0)	techqajp02.jp.oracle.com	
シストジェア内更い	ボート <u>(R</u>)	1521	
前自来作のチェック	サービス/SID <u>(E</u>)	em12rep	
インストール・タイプ	<u>S</u> YSバスワード(S)		
データベース接続の詳細	S <u>Y</u> SMANバスワード(Y)		
<u>ブラグインの選択</u>			
WebLogic Server/Emmittee			
375 CO 3CO Y COMPANY			
Lein			
1.2. VI ARRIVE			
T (W			
	メッセージ <u>(M</u>):		

7) 「**プラグインの選択**」画面では、もしこのアップグレード作業の中で追加インストールしたいプラグインがあれ ばチェックを付け選択します。

ヒント

グレー・アウトしているプラグインは必須プラグインなので選択を外すことはできません。

ラグインの選択		ORACLE	Interprise Manager Cloud Control
My Drawle Supported of	ブラグ のライ ンを選	インには、特定タイプのターゲット領域またはソリューション フサイクルはEnterprise Managerのコア・プラットフォーム Rしてください。	*領域に合せた管理機能が備わっており、 から独立しています。構成する管理ブラク
	The	乙則 Ownels Database	121020
(1-31-0 1-1-3	¥	Oracle Database	12.1.0.2.0
データベース接続の詳細		Oracle Exauata Oracle Eurian Middleuora	12.1.0.2.0
ゴーガインの避損		Oracle MOS (My Oracle Support)	121020
2724 201M	- T	EMC CLARIION Array	121020
<u>WebLogic Server構成の詳細</u>	H	EMC Celerra Storage	121020
TANK AND DESCRIPTION	一日	EMC Symmetrix Array	121020
al of the Constant	믐	Exalogic Elastic Cloud Infrastructure	121010
dent de la company	日日	IBM DB2 Database	121.0.2.0
The second second	E	Oracle Audit Vault	121020
	Ħ	Oracle Chargeback and Capacity Planning	12.1.0.2.0
1911	Ē	Oracle Cloud Application	12.1.0.2.0
THE ALL ADDRESS OF	Ē	Oracle Exadata Healthchecks	12.1.0.2.0
	Ē	Oracle Fusion Applications	12.1.0.2.0
	百	Oracle Siebel	12.1.0.2.0
	E	Oracle Virtualization	12.1.0.2.0
		Sybase ASE Database	12.1.0.2.0
	メッセージ	<u>(M):</u>	

注)アップグレード・コンソール「ソフトウェアの管理」フェーズで、必要なすべてのプラグイン・ファイルをダウンロードし、検証も成功したにも関わらず「プラグインの選択」画面の前に次のようなエラーが表示された場合は、一旦 OUI を終了し、次のように"-pluginLocation"オプションを付けて OUI を起動してここまでのステップをやり直してください。



<pre>\$ <software_location>/runIn</software_location></pre>	staller -pluginLocation <plugin_archive_location></plugin_archive_location>
例) [oracle@techqajp01 Disk1]\$ /home/oracle/sw upgrade12c	/mnt/EM12cBP1/Disk1/runInstaller -pluginLocation

 WebLogic Server 構成の詳細」画面では、"WebLogic"および"ノード・マネージャ"のパスワードを入力し、 必要があれば"OMS インスタンス・ベースの場所"(デフォルトは<Middleware_HOME/gc_inst)を修正して 「次へ」をクリックします。

VebLogic Server構成の詳細		ORACLE	Enterprise Manag	jer Cloud Control 1
My Oracle Support 0% (10)	WebLogicドメイン名 WebLogicユーザー名 <u>(</u> U) Web <u>L</u> ogicバスワード(L) バスワードの確認 <u>(</u> C)	GCDomain weblogic]	
<u>ブラグインの選択</u> WebLogic Server構成の詳細 <u>古いリポジトリの詳細</u>	ノード・マネージャ・ユーザー名 ノード・マネージャのバスワー <u>ド</u> (D) バスワードの確認 <u>(</u> O)	nodemanager ••••••		
A MEROZEN M- + MEROZEN MU 1 MA MUMMAN	OMSインスタンス・ベースの場所(I)	/u01/app/Middleware/g	c_inst	参照(5)
	メッセージ <u>(M</u>):			

9) 「**古いリポジトリの詳細**」画面では、「**古いリポジトリ接続文字列**」に既存の Grid Control 10g/11g 管理リポ ジトリ・データベースへの接続情報が正しく提案されていることを確認し、"SYSMAN"ユーザーのパスワード を入力して「**次へ**」をクリックします。

ちいリポジトリの詳細		ORACLE	Enterprise Manager Cloud Control 1
 My Oracle Support World リマキウェアの更い 	古いリポジトリ接続文字 <u>列(</u> 0)	(DESCRIPTION=(ADDR HOST=techqajp01.jp.(TA=(SERVICE_NAME=	ESS_LIST=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)(pracle.com)(PORT=1521)))(CONNECT_DA emrep.jp.oracle.com)))
- mean-praint	古いリポジトリのSYSMANパスワービ(R)		
2-1221-11917			
ショラウイレの広府			
WebLogic Server構成の詳細			
古いリポジトリの詳細			
表領域の場所			
· 中一 1867-077719			
- 1711			
- 1221-waterre			
0.001			
	メッセージ <u>(M</u>):		

10) (Grid Control 10g からのアップグレードのみ)「表領域の場所」画面では、JVM 診断データ表領域のデータ ファイルを配置する場所を変更する必要がある場合のみ修正を行います。

「**次へ**」をクリックします。

表領域の場所	ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12
Average (4,0) (3,11) Average (4,0) (3,11) <th>アップグレード中、JVM関連の監視データを絡納するための追加のJVM診断データ表領域が作成されました。デー・ ファイルの場所を指定してください。 JVM診断データ表領域(V) J/db_1/oradata/em12rep/mgmt_ad4j.dbf</th>	アップグレード中、JVM関連の監視データを絡納するための追加のJVM診断データ表領域が作成されました。デー・ ファイルの場所を指定してください。 JVM診断データ表領域(V) J/db_1/oradata/em12rep/mgmt_ad4j.dbf
	メッセージ <u>(M)</u> :

11) 「ポート構成の詳細」画面では、必要があれば Cloud Control 12cの各コンポーネントが使用するポート番号を変更することができます。

注) "Oracle Enterprise Manager Upload HTTP Port"および"Oracle Enterprise Manager HTTP SSL Port"は「<u>5.2.2 アップグレード前のステップ</u>」 - 2)「新規 Oracle Enterprise Manager システムのホストとポートの識別」で設定したポート番号と一致していなければなりません。

Oracle Enterprise Manager Upload HTTP Port = OMS 非セキュア・ポート Oracle Enterprise Manager Upload HTTP SSL Port = OMS セキュア・ポート

ート構成の詳細	ORAC	CLE Enterprise Manage	er Cloud Contro
My Tradit support of t (∀) = (0) (= 0)	Enterprise Managerシステムの構成には、システム・コン ンソールへのアクセスを可能にするための、いくつかのポー に割り当てられるポートと推奨されるポート範囲を示しま 能な1つ目のポートが選択されています。	ポーネント間の内部通信を容易にし ートの割当てが必要です。次の表に す。デフォルトでは、指定されたポ	/、 ブラウザから(、 名コンポーネン ート範囲内で使用
1-3 0 514	stat <u>i</u> cports.iniファイ	ルのインボート(I)	
T. C. Lawrence		### + L 7 - H _ 1 75 m	-
		推奨されるホート範囲	ホート
and a second second	Enterprise Manager Opload Http Port	4889-4898	4889
aldagin ar ar	Enterprise Manager Optoad Hitp SSL Port	7799-7809	4900
TO U PE E UNITE	Node Manager Http SSL Port	7401-7500	7402
	Managed Server Http Port	7201-7300	7202
表領域の場所	Enterprise Manager Central Console Http Port	7788-7798	7788
ポート構成の詳細	Oracle Management Agent Port	3872 1830-1849	3872
Fm = 71	Admin Server Http SSL Port	7101-7200	7101
<u>生業計20</u>	Managed Server Http SSL Port	7301-7400	7301
	メッセージ <u>(M</u>):		
	メッセージ <u>(M</u>):		

「**次へ**」をクリックします。

12)「確認」画面で、ここまでのステップで行った設定内容を確認します。

もし何らかの修正を行う場合は、「**戻る**」をクリックして必要なステップまで戻ってやり直します。 すべての内容が正しいことを確認できたら「インストール」をクリックします。

奞認	ORACLE Enterprise Manager Cloud Control
My Oracle Supportの詳細 ソフトウェアの更新 前提条件のチェック インストール・タイプ データベース接続の詳細 ブラグインの選択 WebLogic Server構成の詳細 支価減の場所 ホート構成の詳細 確認	 指定した情報を確認し、「インストール」をクリックして、インストール・プロセスを開始します。 Enterprise Manager 12cへのアップグレード(U) ソース: /home/oracle/EM12101BP1/stage/products.xml ディスク領域 使用可能: 389.59CB 必須: 7CB ーインストール場所 ―WL5ホーム: /u01/app/Middleware/wisserver_10.3 _OMSホーム: /u01/app/Middleware/oms ニージェント・ホーム: /u01/app/Middleware/agent/core/12.1.0.1.0 データベース情報 一接続文字列: (DESCRIPTION=(ADDRESS_LIST=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)(HOST=techqajr
	- ドメイン名: GCDomain - ノード・マネージャ・ユーザー名: nodemanager WebLogicユーザー名: weblogic ボート Enterprise Manager Upload Http Port : 4889

13) アップグレード(インストール)の進捗状況は、プログレス・バーおよびステップ毎の詳細ステータスで表示されます。



14)「**構成スクリプトの実行**」のポップアップ画面が表示されたら、新たにターミナル画面を開き、root ユーザー で次のスクリプトを実行します。

<OMS_HOME>/allroot.sh

例)

[root@techqajp01 ~]# /u01/app/Middleware/oms/allroot.sh

実行後は「構成スクリプトの実行」画面に戻って「OK」をクリックします。

	構成スクリプトの実行	×
次の構成スク	リプトは、rootユーザーとして実行する必要があります	-
実行されるス	クリプト	
番号	スクリプトの場所	
	1 /u01/app/Middleware/oms/allroot.sh	
構成スクリプ	トを実行するには、次のようにします。	
2. root 2.1	プログインします	
3. スクリプト	を実行します	
4 097-	トリに広り、「ひろ」をシリッシュに続けてます	
	OK	

15)「**閉じる**」をクリックして OMS のアップグレード(インストール)を完了します。

 MV Oracle Support の評価 ソコトウェアの実新 用語条件のチェック インストール・タイプ データへース電機の評価 プラグインの運用 WebLogic Server構成の評価 古いリボジト りの詳細 著編家の障所 ホート構成の評価 確認 インストールの進行状況 ごの情報は次の場所でも入手できます: /u01/app/Middleware/oms/install/setupinfo.txt Enterprise Manager のインストールに関する情報は、次を参照してください: エーレン(のURLを使用してアクセスします: 1. Enterprise Manager Cloud ControlのURL: https://techqajp02.jp.oracle.com:7809/em 2. 管理サーバーの如果に https://techqajp02.jp.oracle.com:7101/console 追加のOMSインストールの際に次の情報を指定する必要があります: 1. 管理サーバー・ボート: 7101 注意: 管理リゴジトリの機密データを暗号化する暗号化酸が生成されました。このキーがなくなると、リボジトリ内 の暗号化されたデータがすべて使用不可になります、次のコマンドを実行して、emkeyを含む管理サービス構成 のバックアップを作成し、別のシステムに保存してください: emctl exportconflg oms -dir backup location> 	終了	ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12		
 ・ ・ は (元の詳細 ・ ・ 、 ・ ト は (元の詳細 ・ ・ 、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	Mv Oracle Supportの詳細 ソフトウェアの更新 前提条件のチェック インストール・タイブ データベース播発の詳細 ブラグインの遮帆 WebLogic Server構成の詳細 古いりボジトリの詳価 黄衛環の環所	この情報は次の場所でも入手できます: /u01/app/Middleware/oms/install/setupinfo.txt Enterprise Managerのインストールに関する情報は、次を参照してください: 次のURLを使用してアクセスします: 1. Enterprise Manager Cloud ControlのURL: https://techqajp02.jp.oracle.com:7809/em 2. 管理サーバーのURL: https://techqajp02.jp.oracle.com:7101/console 追加のOMSインストールの際に次の情報を指定する必要があります:		
	 → ホート構成の詳細 → 確認 → インストールの進行状況 ● 終了 	 管理サーバーのホスト名: techqajp02.jp.oracle.com 管理サーバー・ボート: 7101 注意: 管理リボジトリの機密データを暗号化する暗号化鍵が生成されました。このキーがなくなると、リボジトリ内の暗号化されたデータがすべて使用不可になります。次のコマンドを実行して、emkeyを含む管理サービス構成のバックアップを作成し、別のシステムに保存してください: emctl exportconfig oms -dir <backup location=""></backup> 		

ヒント

アップグレード完了後、Cloud Control 12c コンソール画面へアクセスする際の URL は、この画面、または setupinfo.txt ファイルから確認することができます。 画面の例の場合) https://techqajp02.jp.oracle.com:7809/em

5.3.4. データベース・リンクの作成

既存の Grid Control 10g/11g 管理リポジトリ・データベースと、Cloud Control 12c 管理リポジトリ・データベース との間にリンクを作成します。

1) 既存の Grid Control 10g/11g コンソール画面にログインし、アップグレード・コンソール画面から「アップグ レード済みリポジトリへのリンクの作成」を選択します。

OMSとリポジトリのアップグレード処理				
OMSとリポジトリをアップグレードするには、次の手順を実行します。OMSとり 成」の手順を実行します。	ポジトリをアップグレードする 前に、オプションでエージェントをデプロイおよび 構成するよう選択できます			
フェーズ名	説明			
<u>リポジトリのバックアップ</u>	管理リポジトリのバックアップ			
<u>リポジトリ・バックアップ詳細の指定</u>	管理リポジトリをバックアップしたときの情報を指定します。			
OMSとリポジトリの手動アップグレード	既存のOMSと管理リポジトリを手動でアップグレードします。			
「アップグレード済リボジトリへのリンクの作成	以前のリリースの管理リポジトリとアップグレードされた管理リポジトリとの間にリンクを作成します			

2) 「**アップグレードされたリポジトリの接続記述子**」へ入力する値は、アップグレードされた(Cloud Control 12c の)OMS インスタンス・ベース・ディレクトリ(デフォルトでは gc_inst)にある emgc.properties ファイルから EM_REPOS_CONNECTDESCRIPTER の値として確認することができます。

ヒント

EM_REPOS_CONNECTDESCRIPTOR の値から"\"(バックスラッシュ)およびスペースを除いた文字列を 接続記述子へ入力します。

例)

[root@techqajp01 ~]# grep EM_REPOS_CONNECTDESCRIPTOR /u01/app/Middleware/gc_inst/em/EMGC_OMS/emgc.properties

EM REPOS CONNECTDESCRIPTOR=(DESCRIPTION\=(ADDRESS LIST\=(ADDRESS\=(PROTOCOL\=TC

P) (HOST\=techqajp01.jp.oracle.com) (PORT\=1521))) (CONNECT_DATA\=(SID\=em12rep)))

これより接続記述子は、

```
(DESCRIPTION=(ADDRESS_LIST=(ADDRESS=(PROTOCOL=TCP)(HOST=techqajp01.jp.oracle.
com)(PORT=1521)))(CONNECT_DATA=(SID=em12rep)))
```

さらに既存の Grid Control 10g/11gとCloud Control 12c、双方の SYSMAN ユーザーのパスワードを入力し、「**DB リンクの作成**」をクリックします。

G	RACLE: Enterprise Manager 10g		ホーム ターゲット デプロイ				
	一般 プロビジョニング						
\overline{P}	<u> プグレード・コンソール</u> >						
	リポジトリ・リンクの詳細						
	アップグレードされたリポジトリの接続記述子	(DESCRIPTION=(ADDRESS_LIST=(AD) アップグレードされたリボジトリの接続文字列を入力してください。接続文字列は、emgc. emgc.propertiesファイルは、OMSインスタンス・ホームにあります。	propertiesファイルのEM_REPOS_CONNECTDESCRIPTC				
	アップグレードされたリボジトリのSYSMANパスワー ド	Oracle Management Service 12dリリース1 (12.1.0.1.0)のSYSMANパスワードを入力しま	ತ.				
	古いリポジトリのSYSパスワード	Oracle Management Service 10gリリース5 (10.2.0.5.0)のSYSパスワードま入力します。					
3) データベース・リンクが正常に作成されていることを確認します。



5.3.5. ソフトウェア・ライブラリの再構成

(既存の Grid Control 10g/11g 環境でソフトウェア・ライブラリが構成済みだった場合のみ) Cloud Control 12c 環境でソフトウェア・ライブラリの再構成を行います。

- 「<u>5.2 アップグレード前のステップ</u>-3)」で、あらかじめ用意した Grid Control 10g/11g ソフトウェア・ライブラ リのアーカイブを展開しておきます。
 展開したソフトウェア・ライブラリフォルダは Cloud Control 12c の OMS インスタンスからローカルでアクセ ス可能である必要があります。
 また展開後のフォルダ、ファイルが Cloud Control 12c OMS の実行ユーザー(本資料では oracle)に対し て read/write が許可されていることも確認します。
- 2) Cloud Control 12c コンソールにログインし、「設定」→「プロビジョニングとバッチ適用」→「ソフトウェ ア・ライブラリ」を実行します。

		設定(ミー ヘルブ(圧) - M S	SYSMAN → ログアウト 🤇
	9.	エージェント アップグレード後のタスク	09/07 13:14:26 J5T C
および使用状況 ✓ 詳細を表示		拡張性 ・ プロキシ設定	
Platform		セキュリティ ・ インシデント ・ 通知 ・	Hosts
r server release 5.7 (Cartnage) rver release 5.7		クラウド・・	2
	ソフトウェア・ライブラリ	プロビジョニングとパッチ適用・	
	オフライン・パッチ Linuxパッチ適用	My Oracle Support ・ ミドルウェア記念断	
ンス・サマリー	ネットワーク・プロファイル	管理サービスとリポジトリ	
ンス・フレームワーク コンプライアンス標準 傾向の表示		コマンドライン・インタフェース Management Pack	
		ターゲット	評価 違反
		Q A	A 🔁 🔕 🛋 🗛

3) アップグレード後にソフトウェア・ライブラリの再構築が必要である旨の警告が表示されるので、「アップグレード後の再編成」のリンクをクリックします。

ORACLE Ente	rprise Manager Cloud C	ontrol 1.2c			論定員
👍 Enterprise(E) 🕳 🎒 🤊	-9-40) 🖕 🏠 🚓 🗆 2000 🗸			2-7	1.48 M
シフトウェア・ライブラ):管理				
シフトウェア・ライブラリ>ンフ	NET STREET				
▲ 書名 ソフトゥッエ・ニィイヨー アップリード他の高裕 アップロード・ファイル ソフトゥェア・ライブラルエン 記録相のタイプ OMS共有:	は「豊富アップグレードきわましたが、 「 「 「 ティチィのファイルのアップロードに ファイルンステム	まだ再構成されていません。ソフトウェア・ライブラ 実形できる記憶用の場所を構成します。	USi後期可能になるのは、再構成を素行した後です。再構成プロイ	とえを開始するには、下をクリックしてくた	5804
ONSあたのファイルシステ の変格証明を構成できます ビュー 。	ムの場所を構成します。この場所は *	、まべての046インスタンスからローカルでアクセ	ス可能である必要が高り、道策、マウンたまれた共有の場所になり	ます。オブションで、場所に対する対数	时/書店
老师	28-92		MISIL>Per-	61196	使用可能 1
migradedl	非アクティブ	/home/gracle/zeltb1	80	使用下可	使用行

4) Grid Control 10g/11g でソフトウェア・ライブラリとして設定していた各フォルダ・パスに対応する、1)で作成 した新たなフォルダ・パスを設定し「検証」をクリックします。

ORACLE Enterprise Mana	ger Cloud Control 12c	
🚓 Enterprise(0) . 🎒 9- 20+ 0) . 🔶	88(は入り(2)。 👩 開着(2)。	3-3
ソフトウェア・ライブラリ		
場所の再構成 ソフトウェア・ラ・ブラリが最近アップグレードされ に 地防谷存在に、対応する場所のコンタンパ てのエンティティが引き続き機能しアクセス可能	n、現在ではリースEMP/ステムと同し記録組の場所を使用するように環域されています。ソフトウェ がその値所にコピーされ、アーカイブされていないことを確認します。高幅成された値所を確認する「 であることが確認されます。	ア・ライブラリを更用可能にするには、現在構成されている場所の代替の場 際、新しい場所を追加する前に、いざりトリのエンチィティの論全性が接望さ
511	古いパス	単規 八 3
migrafadi	/hume/oracle/veribl	/shared/swith2

5) 検証が正常終了したら「確認」をクリックしてジョブを発行します。ジョブが正常終了すればソフトウェア・ライ ブラリの再構成は完了です。

5.4. エージェントのアップグレード処理

1) アップグレード・コンソールから「エージェントのデプロイと構成」を選択します。

エージェントのアップグレード処理	
エージェントをアップグレードするには、次の手	順を実行します。エージェントの数が多い場合、1回目に1セットのエージェントをアップグレードし、2回目に次のセットを
フェーズ名	説明
<u>エージェントのデブロイと構成</u>	すべての管理対象ホストでOracle Management Agent 12cリリース1 (12.1.0.1.0)のインストールと構成を 行います。
<u>デプロイ済エージェントのシステム状態レポー 成</u>	<u>トの生</u> デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーする前に、そのエージェント のシステム状態レポートを生成します。
<u>デプロイ済エージェントのシステム状態レポー インオフ</u>	<u>トのサ</u> デブロイ済エージェントに対して生成されたシステム状態レポートを確認し、サインオフします。
<u>エージェントの切替え</u>	デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーします。

2) 必要に応じて任意の操作名(ジョブ名)を指定します。

「操作タイプの選択」オプションに ・エージェントとプラグイン・ソフトウェアのデプロイ

- ・エージェントとプラグイン・ソフトウェアの構成
- がどちらも選択されていることを確認します。

「検索」をクリックして、アップグレードを行う管理エージェントを検索し、リストへ表示します。

ORACLE Enterprise Manager 10g		ホーム ターゲット デプロ	1
一般 プロビジョニング ファゴガレード・アントーレント			
エージェントのデプロイと構成			
* 操作名 Deploy_2012_08_07_09_45_00_9 この採作の一意の名前を入りします。			
操作タイプの選択			
デブロ のみ、デブロイと構成の両方、デブロイ済ソフトウェア・バイナリの構成のみの ■エージェントとプラグイン・ソフトウェアのデプロイ	操作タイプから選択します。		
☑ェージェントとプラグイン・ソフトウェアの構成			
検索エージェント この地体の実行対象の銃袖エージョンした検索」 避視します この地体の実行(- 涛」を絵碑てこぷっ、人のひがりつしさわます		
	こ週のに皆理エークエクトののかり入下されより。		
	9/(
ヴループ グループの選択 🖌	バージョン すべて 🍟	検索	
〔追加〕 (関連エージェントの追加) (削除) □すべての:	エージェントに同じパスを使用 □任意	の既存ディレクトリの上書き □Cleanur	o F
<u>すべて選択</u> 選択解除			_
選択エージェント	古いエージェント・ホーム	エージェント・ペース・ディレクトリ	
techqajp01.jp.oracle.com:3872	/scratch/OracleHomes/agent10g	/u01/app/agent12c	

- 3) 管理エージェントのリストの中から、アップグレード処理を行うエージェントを選択し、Cloud Control 12c エ ージェント用の
 - エージェント・ベース・ディレクトリ
 エージェント・インスタンス・ホーム
 を指定します。

注) エージェント・ベース・ディレクトリに<Middleware_HOME>を指定することはできません。 エージェントのインストール・ベース・ディレクトリには 110MB 以上の空き容量が必要です。

「エージェント資格証明」に、「Oracle ホーム優先資格証明を使用」または「Oracle ホーム優先資格証明の オーバーライド」を指定します。

(本資料では Oracle ホーム優先資格証明のオーバーライドを使用)

Exclusion (a) consider constant) scaracch Oracle#Somes agent10g ///01/app/agent12c/agent I-ワエント 資格証明 Colefficientes agent10g ////////////////////////////////////	運営エーフェント				古いエージェント・ホーム	エージェント・ボース・ディルクトリ	エージェント・インスタンス・ホーム
エージェント 資格証明 この操作に使用する違格証明的タイプを選択します。以前のリリースのエージェーとに使用したのと同じ遺格証明を必ず使用してください。違格証明のオーバーライドを選択する場合、すべてのOracleホームに使用され ③ Oracleホーム優先違格証明的後用 ③ Oracleホーム優先違格証明的後用 ● 30 disホーム優先違格証明的オーバーライド *2-サー名 oracle *パスワード *パスワードの確認 ● 50 disホーム ● 50 disホーム ● 50 disホーム *パスワードの確認 ● 50 disホーム	E techquip01.	p oracle cont 287	6		scratch OracleHomes agent10g	/u01/app/agent12c	/u01/applagent12c/agent_inst
*2-ザー名 joracle */13ワード */13ワードの確認 */13ワードの確認 */13ワードの確認 */13ワードの確認 */11	Iージェント 資料 この操作に使用す ○ Oracleホーム	各証明 る波格証明657 優先波格証明5	フを選択します。以前 使用	ຫມາ−ລຫຼາ-ວິ @	- いで使用したのと同じ資格経明を必ず使 Oor dest ーム 優先資格経明のオーバーラー	明してください。 道格証明的オーバーライドを選択する場 イド	会、すべてのOnacleホームに使用される姿格証明
・パスワード ・パスワードの確認 ・・・・・・ 家庁 権限 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	Г	*2-#-	& oracle				
*パスワードの確認 家行権限 ③なし ○ SUDO *影毛族行 //パ: olivaget) 〇 Power Broker = 影を取ら		= 25,37					
実行権限 ②なし O SUDO * 記名取行 I(所: olivagent) O Power Broker = 記名取注		*パスワードの	·····	•			
③なし ③ SUDO + 野地名政行 川所 olinagent 〇 Power Broker = 聖地名英语 ブロフェイル	実行権限						
C SUDO + Stantin (M: olivagent)	040						
(%) comagent	OSUDO	* 影響演行	1				
D Power Broker - Pikamos Jona-/ a			(W) offengant)	_			
A state second - BACKII	O Power Brok	ker + 别名奥行		707+18			
(Insular PD) (Insular PD)			(Inequition (II)		M almini		

入力内容が正しいことを確認して、「次へ」をクリックします。

4) 管理エージェント・ホスト上で root.sh を実行するための「ルート資格証明」を設定します。

ORACLE Enterprise Grid Control 一般 プロビジョニング	e Manager 10 <i>g</i>					ホーム ターゲット デプロイ
<u>アップグレード・コンソール</u> > 事前デプロイ・オプション	(オポション)					
このオプションは、管理エージ	ェントのソフトウェア・バイナル	Jをデプロイする	る前に、コマンドまたは	スクリプトを実行する必要	がある場合に有効化します	t.
□事前コマンド /スクリブ	トの実行					
構成後オプション(オプシ このオプションは、デプロイ済行	/ヨン) 管理エージェントの構成後()	こ、コマンドまた	さはスクリプトを実行す	る必要がある場合に有効	り化します。	
□事後コマンド /スクリブ	トの実行					
<mark>ルート 資格証明</mark> root.shを実行するには、roo し、権限のある別のユーザー	tユーザー・アカウントの資格 ・アカウントにスイッチオーバ・	ネ証明を入力し −するためのす	します。これは、Wind 必要な詳細を入力して	owsエージェントのみのア [.] べださい。	ップグレードを選択した場合	のオプションです。これらのコマンドまたはスクリブ
*ユーザー名	root					
*パスワード	•••••					
★パスワードの 確認	•••••					
● なし						
O SUDO ★別名実行	root					
	(例: odmagent)					
○Power *別名実行	root	プロファイル				
Broker ダビント SUDOまたはPower	(例: odmagent) r Brokerを選択する場合け	ホスト・ターク	(例: admin) デットに権限設定が行	われていることを確認して	〈だざい。権限委任設定の)管理
5 25 - 115 00 Close of the			a a na na isang bargari ti		HELEN DIMENSION	

入力内容が正しいことを確認して、「送信」をクリックします。

5) 2)の操作名でジョブが発行されるので、ジョブが正常終了していることを確認します。

72-X4	注 明	未開業	建作用	法教	-
1-91210元3月1日、新闻	#べての管理対象ホストでOracle Management Agent 12がリース1(121113)のインストールと構成を PRC連手。	1		4	1
プロ行論エージェントカシスタム 活動トポートの生 S	デプロイ海エージェントを教展Dimenonie Managerシステムに入引きオーバーする前に、そのエージェント のシステム状態しポートを主成します。	k	- <u>0</u> -		8
プロイン第エージェントのソステム 紙 懐い ボートのサ ンオフ	デブロイ油エージェントに対応で生成されたシステム状態レポートを確認し、サインオフします。	1	NA.	S'A	4
ージョントの切留ま	デブロイ演士ージェントを新聞Entreprise Managerシステムにスイッチオーバーします。	r	0	1	

6) 次に、「デプロイ済みエージェントのシステム状態レポートの生成」を選択します。

エージェントのアップグレード処理		
エージェントをアップグレードするには、次の手順を見	見行します。エージェントの数が多い場合、1回目に1セットのエージェントをアップグレードし、2回目に次のセッ	ットを
フェーズ名	説明	
<u>エージェントのデプロイと構成</u>	すべての管理対象ホストでOracle Management Agent 12cJリース1 (12.1.0.1.0)のインストールと構成を 行います。	
デブロイ済エージェントのシステム状態レポートの生 成	、デブロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーする前に、そのエージェント Dシステム状態レポートを生成します。	
テプロイ済エージェントのシステム状態レボートのサ インオフ	デブロイ済エージェントに対して生成されたシステム状態レポートを確認し、サインオフします。	
<u>エージェントの切替え</u>	デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーします。	

7) 必要に応じて任意の操作名(ジョブ名)を指定します。

「検索」をクリックして、アップグレードを行う管理エージェントを検索し、リストへ表示します。

ORACLE Enterprise Manager 10g		ホームターゲットデプロイ	7
一一般 プロビジョニング			
<u> アップグレード・コンソール</u> >			
テプロイ済エージェントのシステム状態レポートの生成			
デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerンステムにスイッチオーバーする前に、	そのシステム状態を確認します。		
ヘガの指定			
* 操作名 HealthCheck_2012_08_07_10_18_			
以前の操作からのエージェントをロードします。	《宝行		
検索エージェント	*本 + ***7田子 - *** 、 ホス よりいう ***/ + -+		
この採作の美行対象の管理エージェントを使楽し、選択します。この採作の美行に	週した管理エーンエントのみかりストされます。		
エージェント プラットフォーム	、 すべて 🛛 🔽		
ヴルーナ グループの選択 🔽	バージョン すべて 🗹	検索	
(追加) (関連エージェントの追加) (削除)			
すべて選択 選択解除			
選択 エージェント	旧Oracleホーム	新規Oracleホーム	新規
techqajp01.jp.oracle.com:3872	/scratch/OracleHomes/agent10g	/u01/app/agent12g	/u01/

8) 管理エージェントを選択し、「エージェント資格証明」に、「Oracle ホーム優先資格証明を使用」または 「Oracle ホーム優先資格証明のオーバーライド」を指定します。 (本資料では Oracle ホーム優先資格証明のオーバーライドを使用)

IN THUS INCOME.		- HOmela = A	Bold Created on L	新聞インスサンジンません	1/1-2-0
E techaspil p.mada.com 1872	-	armach OtsicleHanes agent12g	ult app agenti2g	ull app apartile agent_met	1
ージョント 資格証明 の律知に使用する資格証明のタイプ 〇 Dracleホーム優先資格証明を	を選択します。1月前のリリースのエー 用	したまたに使用したのと同な通信証明を必ず使用し の clube - ム優先業者証明のオーバーライド	てくだだい。道格証明のオーバーライドを選択	ける場合、すべてのOracleホームに使用される波移証明の	たりましつ入力します
*2-4-8	oracle				
	E D C C C C C C C C C C C C C C C C C C				
-0,520-					
 ・パスワー ・パスワードの増 	F				
*/527-F0篇 */527-F0篇 950, OSUDO *552第15	F				
*/527-K0篇 (行戦間 2010 *即後期行	F				
*/120- */127-K0編 2011. OSUDO *P16第17 DPower Broker * p16第17	7822r4x	•			

入力内容が正しいことを確認して、「送信」をクリックします。

9) 7)の操作名でジョブが発行されるので、ジョブが正常終了していることを確認します。

エージェントのアップグレード 処理 エージェントをアップグレードするには、次の市場を1	町月します。エージョントの数がるcr場合、1回目に1セットのエージョントをアップグレードに、1回目に次のセット	キアップグレードするよ	痛用できます。この場合、	「国ことに次の手續を確	secara.
リューズ名	IN A CONTRACT OF A CONTRACT.	- 開始	建打中	失期	(15) (15)
1-日约1010年7月18日編成	オペアの管理対象ホストでOracle Management Agent 12491-ス3 (1210.10.0)インストールと構成を 行います。	9	2	1	1
デクロイボエージョントのシスタム世際レオートの生 感	ダブロイ清エージェントを新聞Encorprise Managerンステムにスイッチオーバーする 朝江、寺舎エージェント のシステム 状態しポートを生成します。	0	2	1	(+)
子グロイ湾エージェントのシステム状態レポートのサ インオス	デアロイ演工ージェントに対して生成されたシステム状態レポードも確認し、サインオフします。	1	N:A	NA .	T
エージェンドの技能力	ダブロイ清エージェントを新規Emophie Minaget/システムにスイッチオーパーします。	1	4	1	8

10) 次に、「デプロイ済みエージェントのシステム状態レポートのサインオフ」を選択します。

エージェントのアップグレード処理		
エージェントをアップグレードするには、次の手順を実	行します。エージェントの数が多い場合、1回目に1セットのエージェントをアップグレードし、2回目に次のセッ	小を
フェーズ名	説明	
<u>エージェントのデプロイと構成</u>	すべての管理対象ホストでOracle Management Agent 12cJリース1 (12.1.0.1.0)のインストールと構成を 行います。	
<u>デプロイ済エージェントのシステム状態レポートの生</u> <u>成</u>	デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーする前に、そのエージェント のシステム状態レポートを生成します。	
デ <u>ブロイ済エージェントのシステム状態レポートのサ</u> インオフ	デプロイ済エージェントに対して生成されたシステム状態レポートを確認し、サインオフします。	
<u>エージェントの切替え</u>	デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーします。	

11) 各管理エージェントの「破損したターゲット」、「失敗したメトリック」列を確認し、「0」以外の値が表示されている場合は、「詳細レポートの表示」をクリックしてエラー内容を確認して修正を行った後、必要なステップを繰り返します。

CRACLE Enterprise Manager 10g			1	1-1 19-4-1	778-1 79-1 1a	現在 75752 53	ス らいえ ロジアント プーレポート
-# J007a1>5							
2020-1-1-20-0 > デプロイ油エージェントのシステム状態 デプロイ油エージェントのシステム状態	レポートのサインオフ 思し、サインオフはま。						
(詳細しポートの表示))。ポートの確認	8とサインオフ)						
オペニ現旧・現代解除					投票ディレクトリカのフを開展		
(K) (1 - (71)) - (東海土和明羅	Parage A.F.	量和になきーグタト	天間したメトリック	(Gin	エーザーのサインオン	コーサー教師派
El indigio (Las oracle cons)/872	2012-08-07 19:20:40	問題なし	9	4	392,70963		x

12) 全てのエラーが修正されたら「レポートの確認とサインオフ」をクリックします。

ORACLE Enterprise Manager 10 <i>g</i>			7	<−ム ↓ ターゲット
一般 プロビジョニング				
<u> アップグレード・コンソール</u> >				
テプロイ済エージェントのシステム状態	レポートのサインオフ			
デプロイ済エージェントのシステム 状態レポートを確	認し、サインオフします。			
(詳細レポートの表示)レポートの確認	恩とサインオフ			
すべて選択 選択解除				
選択エージェント	レポート時間	Pingテスト	破損したターゲット	失敗したメトリック
techqajp01.jp.oracle.com:3872	2012-08-07 10:20:40	問題なし	0	0

13) 続いて、「エージェントの切替え」を選択します。

エージェントのアップグレード 処理						
エージェントをアップグレードするには、次の手順を実	エージェントをアップグレードするには、次の手順を実行します。エージェントの数が多い場合、1回目に1セットのエージェントをアップグレードし、2回目に次のセットす					
フェーズ名	説明					
<u>エージェントのデブロイと構成</u>	すべての管理対象ホストでOracle Management Agent 12cJリース1 (12.1.0.1.0)のインストールと構成を 行います。					
<u>デプロイ済エージェントのシステム状態レポートの生</u> <u>成</u>	デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーする前に、そのエージェント のシステム状態レポートを生成します。					
<u>デブロイ済エージェントのシステム状態レポートのサ</u> インオフ	デプロイ済エージェントに対して生成されたシステム状態レポートを確認し、サインオフします。					
<u>エージェントの切替え</u>	デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーします。					

14) 必要に応じて任意の操作名(ジョブ名)を指定します。

「検索」をクリックして、Cloud Control 12c エージェントへ切り替えを行う管理エージェントを検索し、リストへ表示します。

ORACLE Enterprise Manager 10g		ホーム
- 一般 プロビジョニング		
_ <u>アッフクレードコンソール</u> > シラェントの切替 え		
デプロイ済エージェントを新規Enterprise Managerシステムにスイッチオーバーします。		
入力の指定		
* 操作名 SwitchAgents_2012_08_07_10_25		
この操作の一意の名前を入力します。		
以前の操作からのエージェントをロードします。	《 実行	
検索エージェント	法国を注意す。 パーン しのつ ゼロコトさわ キオ	
この採作の美行対象の管理エージェントを使楽し、選択しより。この採作の美行に	通した者理エーシェントのめかりストされます。	
エージェント プラットフォーム	<u> </u>	
ヴループ グループの選択 🔽	バージョン すべて 🗹	検索
(追加) (関連エーシェントの追加) (削除)		
<u>すべて選択 選択解除</u>		tri la o a l
度択エージェント	HOracle末午上	新規Oracleホー」
techqajp01.jp.oracle.com:3872	/scratch/OracleHomes/agent10g	/u01/app/agent12

15) 管理エージェントを選択し、「エージェント資格証明」に、「Oracle ホーム優先資格証明を使用」または 「Oracle ホーム優先資格証明のオーバーライド」を指定します。 (本資料では Oracle ホーム優先資格証明のオーバーライドを使用)

IN THE REAL		HOradah-J.	断続Orschill ーム	新聞インスタンス・ホーム	ステータス
Dischqueill in made.con.1812		wetatch OcacleHorses agentilig	alli app agentilg	ull app spenil2g spent_met	3
ージェント資格証明					
の律問に使用する資格経験的タイプを表	「探します。以前のリリースのエーラ	rントに使用。たのと同じ資格証明を必ず使用。	てくささい。資格証明のオーバーライドを選び	Rする場合、すべてのOracleホームに使用的れる資格証明がれ	2分を10入力に来す。
○ Dracleホーム 量先 資格結構を使用		◎ Oraclwホーム優先資格証明がオーバーライド			
*1-7-8	oracle				
	and the second sec				
*パスワード					
= パスワード = パスワードの確認					
= パスワード = パスワードの確認					
*パスワード *パスワードの確認					
*パスワード *パスワードの確認 Efj確態 回なし					
*パスワード *パスワードの確認 Eff 確例 回なし O SUDO * treaxer					
*パスワード *パスワードの確認 Eff 確例 回なし O SUDO * 旅宅政行	*******				
*パスワード *パスワードの確認 Eff 確例 回なし O SUDO * 旅会旅行 の Power Broker * 税会成け	1007r16				

入力内容が正しいことを確認して、「送信」をクリックします。

すべての「エージェントのアップグレード処理」ステップが成功で終了していることを確認します。

エージェントをアップクレードするには、次の手順を算	町行します。エージェントの数が多い場合、1回日に1セットのエージェントをアップウレードし、1回日に次のセット	をアップクレードするよ	う深田できます。この場合	1回ことに次の手順を導) 追します。
フェーズ名	18 RM	注册院	進行中	実施	福秋
生一丁化合物的生物化物质	すべての管理対象ホストでOracle Management Agent (2d円) - ス1 (11.10.1.0)のインストールと構成を 行います。	4			4
デプロを満たージョントのシステムは際にボートの生	デブロイ湾エージェントを新規Enterprise Minagerンステムにスイッチオーバーする前に、そのエージェント のシステム状態しポートを生成します。	4.	ů.	1	- 41
デブロイ湾エーフェントのシステム状態にオートの生 インオコ	サプロイオエーヴェントに対して主成されたシステム状態レポートを確認し、サインサフします。	1	NA.	NA	+
エージェントのの知る	デフロイ海エージェントを新規Envergeise Managerジステムにスイッチオーバーします。	4	1	1	1

注) 以降、監視対象ホストでは Grid Control 10g/11g 管理エージェントに代わり、Cloud Control 12c 管理エー ジェントがメトリック・データ等の収集を行い Cloud Control 12c へのアップロードを行います。

ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12c	(1)7日・)	1 82
n 🖧 (Balayonati) = 🔮 9-99-100 = 🏫 (AMC).000 = 😌 🖽 💷 =	- Falmiste	
BZ	P2701-1100242	-
管理エージェント	起發性 70年9日第正	*
管理エージェント 構成に入った	セキュ9ティ インシダント 通知	* * *
秋年エージェンド名 割日 オペズ 2 宿園中 日 ブラッカアウト ゆの 使用不可多の	プロモジョニングとパッチ油原	8 +
オロック 新方のック 起動 停止 両起動 セキュア 両保護 赤保護 プロパラィ 奈 マバマ -	ンカy Gracts Support ミドルウェア服装時	
オペエ選択 成功時間	管理サービスだがポジトリ がキーゴマンチライン・インタフェーフ Management Pack	
🗇 techasp02 plarade.com/3972 12.1.0.1.0 🔐 (W.V. No 2012/08/07 10:26/58 0.12 🖌 1.025.10 0	(31.)	-23

5.5. アップグレード後のタスクの実行

5.5.1. 一般的なアップグレード後のタスク

1) OCM スケジューラーの停止 アップグレード前の ORACLE_HOME で構成されていた OCM スケジューラーを停止します。

\$ ORACLE_HOME=<10gまたは11gのOMS_HOME>
\$ export ORACLE_HOME
(Grid Control 11gからのアップグレードの場合はさらに)
\$ ORACLE_CONFIG_HOME=<gc_instディレクトリ>
\$ export ORACLE_CONFIG_HOME
[oracle@techqajp01 oms]\$ ORACLE HOME=/u01/app/Midd

[oracle@techqajp01 oms]\$ ORACLE HOME=/u01/app/Middleware/oms [oracle@techqajp01 oms]\$ export ORACLE HOME [oracle@techqajp01 oms]\$ \$ORACLE_HOME/ocr/bin/emCCR_stop

2) 使われなくなったターゲットの削除

Cloud Control 12c では、Grid Control で使用していたいくつかのターゲットが削除、または移行されています。

以前のリリースでこれらのターゲットに対して通知ルール、メトリックしきい値、標準コンプライアンスやジョブ などを設定していた場合は、新たな Oracle WebLogic サーバーターゲットへ設定を行った後、以下の使わ れなくなった古いターゲットをマニュアルで削除します。

- EM Website
- EM Website System
- Grid Control 10g OMS ORACLE_HOME を構成する Oracle Application Server ターゲット
 Oracle Application Server
 - 0C4J
 - Oracle HTTP Server
 - Web Cache
 - Grid Control 11g OMS ORACLE_HOME を構成する Farm ターゲット secFarm_GCDomain
 - Oracle Fusion Middleware Farm
 - Oracle Weblogic Domain
 - Application Deployment
 - Metadata Repository
- SOA ターゲットのメトリック収集エラーの解決 アップグレード前のリリースで SOA ターゲットの監視を行っていた場合、Top SQL クエリに対するメトリック 収集エラーが発生することがあります。
 この場合は、SOA ターゲットの監視構成ページからデータベース資格証明を付加します。

その他の一般的なアップグレード後のタスクについては、「<u>Oracle Enterprise Manager Cloud Control</u> <u>Upgrade Guide</u>」 - "<u>25 Performing General Postupgrade Tasks</u>"を参照してください。

5.5.2. 遅延データ移行の実行

アップグレード・コンソールのアップグレード前のタスク、「Configure Postupgrade Tasks」で「Disable automatic DDMP jobs」を有効にしていた場合、マニュアルでデータ移行を実行します。

1) 「設定」メニューから「アップグレード後のタスク」を選択します。

設定 マーヘルプ(出) + ター ターゲットの追加 エージェント	sysman + פּלא סירא מידא אין פּאַראָ אַראָאָן אַ
アップグレード後のタスク	7/27 10:16:38 CST C
拡張性 プロキシ設定	• 🔳
セキュリティ インシデント 通知	
プロビジョニングとパッチ適用 My Oracle Support ミドルウェア診断	Hosts
管理サービスとリボジトリ コマンドライン・インタフェーフ Management Pack	ξ

2) 「**遅延データ移行**」のタブを開き、遅延データ移行を実行するコンポーネントを選択して「開始」をクリックしま す。(複数コンポーネントの選択可)

ORACLE Enterprise Manager Cloud Control	12c		設定(1) +
🐔 Enterprise(E) = 🧑 ターザットの = 🌟 おれに入り(E) = 🥝	前音(2) -		9-791201
アップグレード後のタスク			
アクティブ化を保留中のターゲット 発生データ時行	開発データ移行 茶行レポート サインオブ		
遅延データ相対な、古いEntreprine Stanagerスキーでの(非りリティカル	な。魔歴データを12c Enterprise Manageのスキーマに移行するアップグレード	後のアクティビティです。ステークス・アイエンを	りゅうすると、ジョブの詳細が表示されます。
白 副連結解除 開始			
工术一彩小名	25-92	開始	練了
P5-+	0		
Columence	0		
包備成	0		
メドリック	0		
all shows a	-		
Craniely - 24			

3) すべての遅延データ移行が正常終了したことを確認します。

ORACLE Enterprise Manager Gloud Control 12c			設定(1) - へルフ(日) -
🖧 Enterpresenti) + 👹 2 - Yol-(E) + 🌟 BWLAD(E) - 🙆 🖽 ((E) +			2-95) 名の住衆 -
アップグレード後のタスク			R-9-99267
アカティクにお保留中のターゲット 発生デーが終行 遅延データ移行	モジレポート サインオフ		
建築テージ部行は、古いてerrories Manageのスキーマの(部グ)ティカルな 周期データを	12t Entworine Manageスターマン移行するアップグレード的	他のアウティビティです。ステークス・アイエノをクリックする	22、ジョブの詳細が表示されます。
Pa [CB 3274756] 8566]	and the second se		
CT + RU Crettere Mebb			
12/#-#://名	25-02	1994	MF.7
12/オーネンド名 17ウート	29-02	2012/04-07 1:29 12	[MF,T 2012/08/017199-11
工作-おいた アラート Coburenza	29-02	7894 2012/08/07 1:59 10 2012/08/07 1:59 10	MFT 2012/08/07 1 59:11 2012/08/07 1.59:20
工作-本ント名 アラート Coburents 12.構成	25-42	(1895) 2013 00-07 1-19 10 2012 08 07 1-19 10 2012 08 07 1-19 10 2012 08 07 1-19 10	MFT 2012/08/07 3 79 11 2012/08/07 3 59:20 2012/08/07 3 59:20 2012/08/07 3 59:30
ユンボーネント名 アラート Cobsense 20構成 メトワック	28-82	7896 2012/06/07 1/59-10 2012/06/07 1/59-10 2012/06/07 1/59-10 2012/06/07 1/59-10	MT 2012/08/07/179/11 2012/08/07/179/20 2012/08/07/179/19 2012/08/07/9/19/52
エンボーネント名 ドラート Cobuments 記録成 メトウック Coaclet ーム	28-82	7894 2012 08:07 1:09 10 2012 08:07 1:09 10	67 2012/08/07 3 79/11 2012/08/07 1:58:20 2012/08/07 1:18:15 2012/08/07 9:18:15 2012/08/07 1:18:10

5.5.3. 発生データ移行の実行

2 システム・アプローチによるアップグレードで、アップグレード・コンソール「Configure Postupgrade Tasks」 の「Disable autonmatic DDMP jobs」を有効にしていた場合、併せて「Disable automatic ADMP jobs」も有 効となっているので、遅延データ移行の実行に続いて発生データ移行を実行します。

1) 「設定」メニューから「アップグレード後のタスク」を選択します。

設定をすく ヘルプ(出) + クーゲットの追加 エージェント	sysman - ログアウト
アップグレード後のタスク	97/27 10:16:38 CST
拡張性 プロキシ設定	•
セキュリティ インシデント 通知	:
プロビジョニングとパッチ適用 My Oracle Support ミドルウェア診断	Hosts
管理サービスとリボジトリ コマンドライン・インタフェース Management Pack	F

2) 「発生データ移行」のタブを開き、発生データ移行を実行するコンポーネントを選択して「開始」をクリックしま す。(複数コンポーネントの選択可)

ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12c		
🚓 Enterprise(E) 🗸 🞯 ターゲット(I) 🗸 🍲 お気に入り(E) 🗸 🥝 履歴(O) 🗸		
アップグレード後のタスク		
アクティブ化を保留中のターゲット 発生データ移行 連延データ移行 差分	レポート サインオフ	
発生データ移行は、以前のリリースのOracle Management Repository (管理リポジトリ)に保管されて	いた発生データをアップグレードされた管理リポジトリに移行する、ア	ップグレード後のアクティビティです。発生テ
レル・エージェントの場合、発生データ移行アクティビティはありません。このページでは、すべての発生	データ移行ジョブの詳細表示、実行されているジョブの停止、および	び失敗したジョブの再試行が可能です。
発生データ移行の実行対象 AⅢ		
ターゲットの表示 すべて		
ビュー・ 講連結解除 三三三百 改 再試行 停止		
ターゲット名	ターゲット・タイプ	ステータス 開始
LISTENER_techqajp01.jp.oracle.com	リスナー	۲
EnterpriseManager0.techqajp01.jp.oracle.com_oracle_ias_home	Oracleホーム	٢
emrep.jp.oracle.com_oracle_database_home	Oracle T-L	۲
techqajp01.jp.oracle.com:3872	エージェント	۲
▷ emrep.jp.oracle.com	データベース・インスタンス	0
techqajp01.jp.oracle.com_oms_csa_collector	CSAコレクタ	0
▷ techqajp01.jp.oracle.com_beacon	ビーコン	0

すべての発生データ移行が正常終了したことを確認します。

ORACLE Enterprise Manager Cloud Control 12c			設定の	 ヘルカロ・
💰 Energianet) + 🧶 2-79100 + 🌟 89023000 + 😁 🛤 🖽 80 +			9-991-80	秋奈 -
アップグレード後のタスク				R-5-171-5113
学生于#7日本保留中心学一学》 能生了一步移行 第 届于一步移行 秦州1	-F #1547			
発生データ時行は、1/約のワークのDrace Hangement Reportion (管理)ポジャリに保密されてい したシーニアントの構成、第次テニー時間のから、ジストはありません。このターフアは、ポップの第次ラ	は発生データをアックタレードされた管理リホラトルに移行する。アック	クレード後のアクティビティ	です。発生チータはブラックアクト、イ/	(小 shystacting
P.S. I/I/COME. WET. WALL/JICTHREWEEDWCON-/CH. P. COMET.	「一切時でジョンの時間表示」用行でない。そうき、ハルヤビ、のみいた	ALCOCYS 200 BATSA	和細で多々	and the second second
用生于一体操行机模行对象(A) · 用作				
カーゲナトの表示 オペて 👱				
21 通道2000 百万 G MUNO DE				
9-57HB	ターゲット・タイプ	ステークス	開始	MT
> LBTENER_uschapp01.p.oratia.com	リスナー	~	2012/08/07 12:27:48	2012-08-0
Enterpriseldanager@itettopgp01.jp.oradis.com_oradis_int_home.	Gradiet - La	4	2012/05/07 12:27 44	2012/08/0
24 weiren proratis une jarach databas hanne	Charlett-14	*	2012/08/01 12:27:48	3012 08-0
> techapp01 jp craite com 3872	エージェント	4	2012 08-97 12:27 48	2012/08/0
≥ enaveg (ge brazile cost)	データベース・インスタンス	4	2012/08/07 12:27:48	2012/08/0
> tachquig01/p.avade.com_ema_coa_sollactor	C143659	4	2012/06/07 12:27:48	2012.08.0
> techgapp01.jp oranie com_beacon	£-11/	~	2012/08/07 12:27 48	2012-08-0
t> rechysy01 jp practe iom	1.2.1	4	3012080T1227#8	2612 08 0

5.5.4. 差分レポートの生成と表示

2 システム・アプローチによるアップグレードでは、アップグレードが完了するまでの間、旧リリースの Grid Control 10g/11gとCloud Control 12c が共存する期間があります。

アップグレードが完了するまでの間に、例えばソフトウェア・ライブラリに追加の場所を構成するなど、旧リリース に対して変更を加えた場合、アップグレード完了後に、旧リリースに対して行った同様の変更を Cloud Control 12cに対しても行う必要があります。

差分レポートは、このような変更内容のサマリーを表示するので、レポートの内容を基に Cloud Control 12c に対し必要な変更を行うことができます。

設定 (2) マ ヘルプ(出) マ (2) ターゲットの追加 エージェント	SYSMAN → ログアウト
アップグレード後のタスク	97/27 10:16:38 C5T (
拡張性 プロキシ設定	•
セキュリティ インシデント 通知	:
プロビジョニングとパッチ適用 My Oracle Support ミドルウェア診断	Hosts
管理サービスとリボジトリ コマンドライン・インタフェース Management Pack	

1) 「設定」メニューから「アップグレード後のタスク」を選択します。

2) 「差分レポート」のタブを開き、「レポートの再生成」をクリックします。

 ▲ Entreprone(E) - ● ターゲット① - ★ B常に入り(E) + ● 原目(D) - アップグレード後のタスク アップグレード後のタスク アップブレード後のタスク 「違い」のボード(2, 12: Entreprene Manager) 2万とを指定するためにパックアップが取られた後で12:LP1的のEntreprene Manager() 2万しに手動で加えられた、構成または設定関連の変更についての価格を提供し 基本語を使用したいボートのコンシップが可能です。 コンポーネントの差分レポートを生成するためのフップが空にされました。新規ターヴット ビュー・ ● 運転転換 しポートの表を、しポートの画生成 	設定(1)・
アップグレード後のタスク アウティブ化制体協中のターゲット 単生子ー気に行 速速テー対映行 差分レポート ウインオフ 「違い」レポードは、125 Enterprise Managerンステムを指定するためにパックアップが取られた体で125より前のEnterprise Managerンステムに手動で加えられた、構成または結定関連の定型についての情報を提供 詳細を使用したレポートのリフレックユが可能です。 コンポーネントの差分レポートを生成するためのフップが発行されました。新像ターゲット ビュー・ 通 連結解除 レポートの表 レポートの再生成	シーゲットさんの
Pウティブ化 教保留中のウーゼット 単生子 知時行 速速子 知時 差分レポート サインオフ 「違い」レポードは、125 Entreprine Xianager/2 ステムを指定するためにパックアップが取られた後で125より前のEntreprine Xianager/2 ステムに手動で加えられた、構成または指定関連の変更につくての価単を提供し 詳細語を使用したしポートのリフレッジュが可能です。 コンポーネントの差分レポートを生成するためのウップが空によれ来した。新規ターダット ビュー + 「読 連結解釋」 レポートの再生成	
「違い」レポートは、128 Entreprise Manager/ソステムを設定するためにパックアップが取られた後で126より前のEntreprise Manager/ソステムに手動で加えられた、構成または設定関連の変更につくての価単を提供し 詳細を使用したレポートのプレックンが可能です。 コンポーネントの差分レポートを生成するためのジョブが空にされました。新規ターダット ビュー+	
ビュー・ 副 連結解決 レポートの表生 レポートの両生成	オーンロページでは、
2.赤-ネント名 3.5-	
####5-751 ソフトウェア・ライブラリ・エンティティ	

3) レポートの再生成が完了したらレポートを参照したいコンポーネントを選択して「レポートの表示」をクリック します。

ORACLE Enterprise M	lanager Cloud Co	antrol 12c			(P)
🔏 Enterprise(E) + 🍘 9-771-(1) -	🖕 👌 8 100 -				9-59
アップグレード後のタスク					
アカティブ化を保留中のターゲット	発生データ制行	进展于一步接行	差分レポート	94547	
「置い」レポートは、12c Enterprise Man 詳細を使用したレポートのリフレッシュが	apacシステムを設定する。 可能です。	とれにパックアップが用います	と地で12a的前のExe	torgenae Managerシステムに手動で加えられた、構成	反または設立環境の変更についての情報を提供します。このペー
Ez 🔄 izistati	1-10原币 1-11-	的调生成			
コンボーネント名 新畑なーゲット					27-22
ソフトウェア・ライブラリ・エンティティ					~

5.5.5. アクティブ化を保留中のターゲットの表示

Cloud Control 12c OMS と組み合わせて使用できる管理エージェントは 12.1.0.1 以上になります。 もし<u>「5.4 エージェントのアップグレード処理」</u>の中で 12c 管理エージェントへのスイッチ・オーバーを行わずに、 Grid Control 10g/11g 管理エージェントが依然残っている場合、Grid Control 10g/11g 管理エージェントで監視・ 管理を行っているターゲットは Cloud Control 12c から使用することはできません。

「設定」メニューから「アップグレード後のタスク」を選択し、「アクティブ化を保留中のターゲット」タブを開くと、このような旧リリースの管理エージェントのまま残っているターゲットの一覧を表示することができます。

	Manager Cloud Control 12:							11710 · 1	82
🔓 Economica 🗧 👩 3 - 571 (1)	• 👍 約900 🖓 🙃 開閉	k@i+					5	ターゲットの適加	
アップグレード後のタスク								アップグレードであのタスク	
アクティブ化を保留中のターヴァ	• 死生于一外的行 通知	里子	巻分しポート	- 1 45/d7				保険点 プロギン酸症	*
はた、アップグレードをれたたoregian」 をアウティブに学校には、古いErrorprio	Manaperンステムで現在非アクティナな ・Manaperンステムでプレアラブリレード	ターゲットを示します。 ションリールを使用し	これらが37755 て、管理エークェ	F-cブな理由は、これらの にントをアップクレードされ	ターゲットを整定視している様 CEnterprise Manager(ノス)	日里エージェントがアック/ サムニスイッチオーバーし	51.—FSALEEnimprine ManageEr #7.	ゼキュリティ インシテント 通知	* * *
マターゲット・タイフ マイズ (2)	ターデット市 表示するテーラが初り	建铁石					9-791-917	プロビジョニングとパッチ通用 Nily Ocacle Report ミドルウェア記録	•
								管理サービスとりポジトリ コロンボラインのインタフォット	

ー覧にアクティブ化を保留中のターゲットが存在し、12c 管理エージェントへのスイッチ・オーバーを行う場合は、 既存(旧リリース)の Grid Control コンソールにログインし、アップグレード・コンソールを使用して、対象の管理エ ージェントに対して「5.4 エージェントのアップグレード処理」のステップを実行します。

5.5.6. 発生データ移行プロセスのサインオフ

Cloud Control 12c へのスイッチ・オーバーが完了した後、旧リリースの管理エージェントはアンインストールする ことができます。

手動で旧リリースの管理エージェントを削除する代わりに、管理エージェントごとに発生データ移行プロセスをサインオフすると、コンソールを使用して管理エージェントのアンインストールを行うことができます。

1) 「設定」メニューから「アップグレード後のタスク」を選択します。

設定(1) マ ヘルプ(出) + 1 ター ターゲットの追加 エージェント	SYSMAN → □ 0グアウト
アップグレード後のタスク	7/27 10:16:38 C5T
拡張性 プロキシ設定	•
セキュリティ インシデント 通知	
プロビジョニングとパッチ適用 My Oracle Support ミドルウェア診断	Hosts
管理サービスとリボジトリ コマンドライン・インタフェース Management Pack	

2) 「**サインオフ**」タブを開きます。

ORACLE EN	terprise Manage	r Cloud Control 12c	
🐣 Enterprise(E) 👻 👩	ターゲット(エ) 👻 🏫 おき	気に入り(12) 👻 🥝 履歴(02) 👻	
アップグレード後のタ	スク		
アクティブ化を保留中	のターゲット 発生	产一众移行 遅延デーク移行	差分レポート サインオフ
エージェント移行がサイン	オフされると、NG前エージ	エントがアンインストールされ削除され	lます。エージェント移行がサインオフされた後は、NG前エー
するには、リフレッシュ・ア	イコンを確認してくたさい。		
検索基準 サインオフク)保留中 🖌 エージェン	%	検索
ビュー - 🛃 連結	解除 日すべて選択	そ 移行のサインオフ	
エージェント			
techiqajp01 puoracle.co	m:3872		

3) 「サインオフの保留中」のステータスとなっているエージェント一覧の中から、管理エージェントを選択し、「移 行のサインオフ」をクリックします。

ORACLE Enterprise M	lanager Cloud Co	ontrol 12c		
🚜 Enterprise(E) 👻 👩 ターゲット(I) 🕻	- 📩 お気に入り(12) 🗸	◎ 履歴(0) -		
アップグレード後のタスク				
アクティブ化を保留中のターゲット	発生データ移行	遅延データ移行	差分レポート	サインオフ
エージェント移行がサインオフされると、シ	IG前エージェントがアンイ	ンストールされ削除されま	ます。エージェント移行	がサインオフされた後は、NG前エー
するには、リフレッシュ・アイコンを確認して	-1722010			
検索基準 サインオフの保留中 ⊻	1-9171 1%		横索	
ビュー・ 🖬 連結解除 🔲	すべて選択 移行のサ	インオフ		
エージェント				
techqajp01 p.oracle.com;3872				

4) 選択した管理エージェント・ホストへアクセスするための資格証明を指定し、「OK」をクリックします。

資格証明 資格証明の選択	
優先資格証明を選択した場合、1 フのすべてのターデットについていた。	/37の実行時に各クーゲットに対してその優先資格証明的の形形をれます。そのため、設定するすべてのターケットについて実格証明が必要です。優先資格証明のオーバーライドを選択した場合、各ター 小の資格証明が使用されます。
成指証明 - スーザー名	○ 儀先 ○ 名前付き ◎ 新規
*/t25-#	
-1027-平市韓国	
同行编程	tal. 💌
	回到名保存 14C_4057_2012-08-87.122714

5) サインオフが完了すると選択した旧リリースの管理エージェントは自動的に削除されます。

注) サインオフを行うと、選択した旧リリースの管理エージェントは完全に削除され、リカバリする方法はあ りません。

サインオフする前に 12c 管理エージェントへのスイッチ・オーバーが終了し、Cloud Control 12c システム上 で正常稼働していることを確認してください。

5.5.7. インシデント・ルールの更新

旧リリースの Grid Control 10g/11g では、「OMS とリポジトリ」が、環境内すべての OMS に対して定義される共通のターゲット・タイプでした。

また、複数の OMS を構成している場合、異なる OMS に対して収集されたメトリックは、この共通のターゲット・タイプ内に表示されていました。

ー方 Cloud Control 12c では、ターゲット・タイプ「OMS とリポジトリ」に加えて、環境内の各 OMS を表す新しいタ ーゲット・タイプ、「Oracle Management Service」が導入されています。

これにより、例えば環境内に2つの OMS が存在する場合、ターゲット・タイプ「OMS とリポジトリ」が1つ、そして ターゲット・タイプ「Oracle Management Service」のインスタンスが2つ(各 OMS 対して1つ)表示されます。

ターゲット・タイプ「OMS とリポジトリ」では、環境内のすべての OMS に共通するメトリックが取得されるのに対し、 ターゲット・タイプ「Oracle Management Service」では、各 OMS に固有のメトリックが取得されます。

このようにメトリックに対する変更によりインシデント・ルールを手動で調整する必要がある場合、それを行います。

詳細については、

「<u>Oracle Enterprise Manager Cloud Control Upgrade Guide</u>」 - "<u>31 Updating Incident Rules</u>" を参照してください。

「設定」メニュー →「**インシデント」**→「**インシデント・**ルール」

ORACLE Enterprise Man	agér Cloud Control 12:					200 - W70 + 11		#1. #3705 C
🚓 (trimment) = 🍙 3- 954(t) = 👔	26C140. 🙆 880				3	0.830	•	
インシデント・ルール・すべての3	ンタープライズ・ルール					アップクレード日本タスタ	1	38 22:52:42 CST C
ムーロ・シナド、クーザナ、ショアあよりタ ニタ・モンショントまたは円端に対して地子 用します。	リプレートほどのオブジムでの中国ませんと重要すれるホールの31.50% デンデオ・ルールには対すのイベント・パー ルールの通信、インジアングの市場、インジアングの要素、デンタの作用はどのアクジルジを置けてます。ホール	24.72 2 16 16	+ B BIITHBICHUT BIITHD - ANDRES	第行される総数アラシ 作れた標序で評価をより	(1)市村(大) 「南市市市市	重新体 プロキッ論家		1日天六は東京はわたう 1日日天六は東京はあたう 1日日日の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の日本の
79942 + Ex-+ 1911-4-1	neadar agan yan gada tan-arturarta an	-		市内は		**===	-1	
21	19.00		42/8+7947+A	Nag.	10	モノンテンチ		-6月19日4日前一市
1. Adary Chipman Providence	Epiters successed without the rule for investoring Assorts who may have produced apleading rule to the blan	+ 1	1	S.YERGARI	#11	3812		1 4 - 1 - K
De Agenthi Mires will aller	System-associated automatica rule for complicing earsts on a loss compart with the Management Review -	10		E TRANSV	1211	プロビジョニングとバッチ適同		44.48
De Application Station Availability and Conta	a fighten-perioralad authication rale the machinese application flarvers' availability protocolical metric statutant	4		B VENIMI	iti i	My Draste Sugarst	+	6.614
> Builded entryly	Suffere-serviced a billion was for Simpled service		-	SYNERAM	#11	2011年ウルア開催	- 1	1816
> Detabase maskeddy as a Colora States	I gitere-serveraled authoriton tals. An econologies Constance," analogity and uniting the box statutes	+	4	3.7534.91	124.1	***	-	51.81
Do HITP Samer Anality and Defined Of	at Apphate generalist sublipation sub the transformer HTTP Startagy and subliding and ordinal sublicity algorithm.	14		0758841	#11	77.456.0000-7	. 1	NYANA.
De Hort Availability and Detical Chates	Typhen-menorated approximation rule for monitoring blacky' workfully war ordered metric also per-	1	1	117844	121.1	Harrist to an a	. 1	13.58
5. Lotavar Available	Surface provided with both sole risk for excitation debiase Laborers' mainteds and article material debiase.	14.1	1	AVERNAV -	121.0	ine and the provide second	<u> </u>	1.84
De Maconcinera e anterita	Septemmennender entitlenten reis für etterentiterent uterite		4	SVERIMI	は 1-1			14nk
2. DOL/ Analability and Commit States	System-senarated additioners rule for monitoring OO431 availably and critical motio stateges	10	1	SVERSNI	1211			184.6
in DMI service at Ballewice arrors	System-movarated autituation rule for moniforms CMS service initialization errors	11	-	ITYPENNY:	1211			19674
A REAL PROPERTY AND A REAL	With the state of the second state at the second state of the second state of the second state of the	1.00	14	a Catalanter	1011			1413

ORACLE

日本オラクル株式会社 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター

Copyright © 2012. Oracle Corporation Japan. All rights reserved.

無断転載を禁ず

このドキュメントは単に情報として提供され、内容は予告なしに変更される場合があります。このドキュメントに 誤りが無いことの保証や、商品性又は特定目的への適合性の黙示的な保証や条件を含め明示的又は黙示的 な保証や条件は一切無いものとします。日本オラクル株式会社は、このドキュメントについていかなる責任も負 いません。また、このドキュメントによって直接又は間接にいかなる契約上の義務も負うものではありません。こ のドキュメントを形式、手段(電子的又は機 械的)、目的に関係なく、日本オラクル株式会社の書面による事前 の承諾なく、複製又は転載することはできません。

Oracle と Java は、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。